ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。

養育家庭（ほっとファミリー）
体験発表集
（平成24年度）

東京都福祉保健局少子社会対策部

「養育家庭（ほっとファミリー）体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000人います。

都では、このような子供たちが、実の親にかわり、家庭的な環境の下で生活できるように、養子縁組を目的としない「里親」（養育家庭）の普及啓発につとめています。

そして、多くの方に里親の制度を理解していただくとともに里親になっていただけるようにと、各区市町村と協力し、養育家庭体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成24年度に開催された体験発表会において、養育家庭の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

初めて子供に出会ったときの感動、交流中の思いがけない出来事、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題やあわただしい日々の様子など、子育てに奮闘している様子が描かれています。また、真実告知や実子との関係など、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういったご苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭をやっていて良かったというものや、子供から喜びや幸せをもらっているというものなど、一緒に生活をし、経験したからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成２５年９月

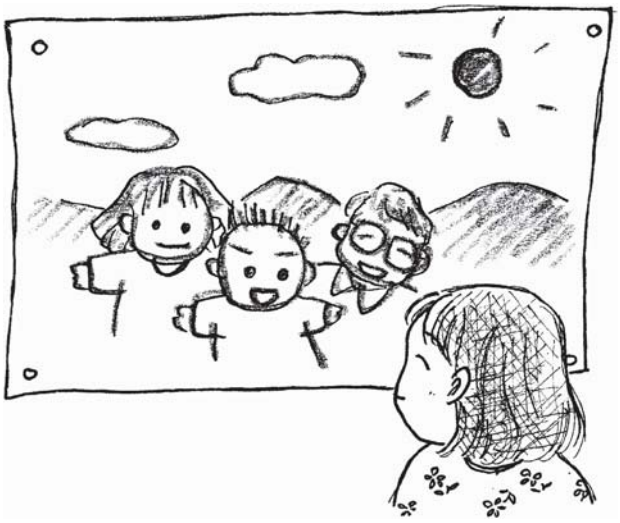
東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長
栗　原　　博

目　　次

１　ひとり立ちの日のために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
２　時間をかけて家族になった私たちの２年間の記録・・・・・・　４
３　養育家庭って、子供にとって「特別」な大人がいること・・・・　６
４　学園祭のバトンパフォーマンスに泣き笑い・・・・・・・・・・・・・・　８
５　一緒に暮らし始めて紡いだ幸せの糸・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
６　家庭の中で心を育む・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
７　地域で育てる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４
８　やがてひとり立ちしていくあなたへ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６
９　「そばにいるよ」親から子へのメッセージ～25 年の軌跡から～・・・・　１８
１０　私自身の自分育て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０
１１　生活を共にするということ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
１２　仲間で支えあう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４
１３　すばらしい体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２６
１４　全てのエピソードが宝物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２８
１５　隠れ応援団がいます・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
１６　いろいろな経験を大切な宝物に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
１７　里子は宇宙人？？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
１８　困難を乗り越えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３７
１９　子供たちに教えられて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０
２０　自分の人生をもう一度生きられるようで楽しい・・・・・・・・　４３

養育家庭（ほっとファミリー）

体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、20人のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

1　ひとり立ちの日のために

【元里子】

ちょうど４年前の冬、児童養護施設から里親のところに行きました。やはり最初のころはどうしても慣れなくて、いろいろ大げんかをしたんですが、何だかんだ、こうやって卒業してちゃんと就職できました。

けんかの原因として大きいのは「勉強」と、あとは「生活」についてです。毎年１回は大げんかをしていました。一番大きかったけんかは高校３年生のころです。大学に行くか、就職するかでもめました。僕自身は大学に行きたかったのですが、里親の考え方は、自分の親の環境とかお金の関係とかを考慮して就職が良いというのです。

それで、結局は就職することにしました。就職して今、自分は役所で国民健康保険の徴収担当をしています。その仕事の中で、就職してよかったなというふうに感じています。仕事をやっていると、大学に行っていてお金を返せない人を沢山見ます。やはり就職してよかったなと思いながら今やっています。

けんかの原因のもうひとつは「生活」についてです。最初のころは自分が今まで生活していた環境と里親のもとでの環境が全然違っていたため、朝のあいさつの仕方とか、お箸の持ち方とか、そういう細かいところからいろいろ怒られたりして生活していました。基本的に里親は自分を自立させるためにやらせているという姿勢でした。中３の途中からは自分で洗濯するようになったし、ちょくちょく料理を教えてもらったりしてやっていました。

大げんかしたときには、近所の方とか里親の知り合いの方とかが仲裁に入ってくれて、相談に乗ってもらいながらやってきました。学校の先生も巻き込みながらいろいろと乗り越えてきた感じですね。

里親のところに行って良かった事は、いろいろな視野が広がったということと、人間付き合いがすごく増えたということです。里親の知り合いの方とのつながりが増えました。特に近所付き合いがすごくよかったです。朝、学校に行く途中に会ったりすると、「きょうは元気？」「大丈夫？」と声をかけてくれるので、自分はすごく周りから心配されて、また愛されているんだなと感じていました。

里親の方は積極的な方で、海とか旅行とかにいっぱい行っていました。そのときに、一緒に行って、いろいろな経験ができました。それまで野球ばかりしていたんですが、野球だけじゃないんだよ、というふうにいろいろ教えてもらい、すごく充実した４年間でした。

振り返ればけんかも今の仕事にとても生きていて、メンタル面が強くなったと思います。テレビとかを見ていると、僕たちぐらいの世代が、怒られるとすぐにめげたり、うつ病になってしまうと言っていました。本当にそうなのかわかりませんが、やはり

けんかは大事なんだと実感していました。

今、里親から離れて１人で生活しています。受験が終わってからはすごく優しくしてもらっています。体は「大丈夫？」とか「元気？」というふうに接してくれているので、ありがたいなと思いながら生活しています。今も月に１回ぐらいは御飯を食べさせてもらったりしているので、つながりは離れていないです。

あと、里親での生活のよいところは、施設と比べると自分の時間がたくさん持てること。あとは御飯ですね。とても豪華な御飯を毎日食べさせてもらいました。施設だと集団生活でどうしても御飯の量が決められたり、外出するにも申請とか、いろいろ手続をしなければいけないんです。それを考えると、本当に幸せだったなというふうに思います。個人の時間が一番増えたのがすごく良かったです。

それから、里親になろうと思っている方に対してですけれども、やはり里子を将来自立させるということが一番大事だと思います。特に、将来どうするかという時期が一番大変だと思いますね。僕もすごく里親ともめたので、そこを乗り越えたらあとは幸せな日々が待っていると思います。

あとは、やはり近所付き合いとか、そういう人の付き合いの中で里子を一緒に育てるのが一番大事だと思います。周りに相談できないと全部自分で抱え込んで虐待につながったり、どうしても自分で悩んでうつ病になったりすると思うんです。けんかしたときも、近所の人とか、御家族の方、児童相談所の方も来て一緒に対処してくれました。里親は近所の人と、お茶会とか食事会とかを結構やっていたので、そういう面でもすばらしい里親だなと思います。

それから、将来どうするかというときにはやはり現実を突きつけることが重要じゃないかなと思います。現実を突きつけないと、そのまま俺はできるんだと思ってやって失敗してしまい、大変なことになってしまいます。里子の性格を里親が把握することは大事だと思います。里親は、ひとり暮らしをするに当たって必要な手続は全部自分にやらせてくれたので、そこら辺も将来のためになりました。

一応、僕の話としてはここまでですけれども、あくまでも僕の個人的なことなので、例えば事件沙汰になって施設に入った方を里子として迎えるとなると、それはまたどうなるかは全然想像もつきません。僕は普通に生活してきたので、これが普通なのかなと思います。

２　時間をかけて家族になった私たちの２年間の記録

【里母】

私たちが養育家庭の登録をして間もなく１人の女の子が紹介されました。それがＡちゃんです。なぜ里親になったかということですが、私は子供のころから一家団らんにすごく憧れを持って育ち、心に描く温かい家庭にはたくさんの子供がいました。後に結婚して子供ができなかったのは偶然で、しかしすぐに養子や里子をとは思いませんでした。自分たちの都合で子供を育て、重荷みたいなものを背負わせてしまうのではと考えているうちに、子育てするには無理かなと思う年齢になりました。ただ、東京都には、短期委託や緊急一時保護、レスパイトなど様々な形の関わり方もあると知っており、思い立ったのが３年前でした。子育てを一からやるには無理だと思っていたので、お話を伺ったときには、びっくりしました。しかし、特別支援学級に通う、家庭復帰の見込みがない子だと説明があってご縁を感じ、会ったのはＡちゃんが小学校２年生の春でした。本当に小さい女の子で舌足らずなしゃべり方をし、ちょっと笑うと、はにかんで、恥ずかしそうにするかわいい子でした。すぐになついて仲よくなりましたが、彼女はそのときの生活に非常に満足し、養育家庭で暮らすこともできるという選択肢を知りませんでした。私たちと一緒に暮らしたいと思うような気配もなく、どこで気持ちが転換していくのかと施設に疑問をぶつけたこともありました。だから、委託になったときは、ただ、ほっとしました。Ａちゃんが何もわからないまま、３人の生活が始まり、うまくいくのか心配でしたが、子供の不安のほうがもっと大きいはずなので、とにかく今がスタートだと思って我が家に帰ったのを今でもよく覚えています。

施設からは、自分のことは１人でできると聞いていましたが、家では着がえも、洗面も、おふろも、トイレも、食事も何にもできなかったので、試し行動や赤ちゃん返りなのか、それとも本当にできないのか、よくわかりませんでした。ちょっとしたことで、いらいらし、ばたばたして、泣きわめいたりすることが多く、寝ない、食べない、け飛ばす、噛みつくことのくり返しでした。よく「ずっと学園（施設）にいられたらよかったのに。」「友達と遊べなくて寂しい。」ということを言っていました。その願いが叶わなかったのは大人の都合なので、できるだけ受け入れるような形で、だけど、余り甘やかしてもいけないと迷いつつ、戦いながら暮らしました。委託されて３か月たった頃、『おかあさんといっしょ』を一緒に見ていたときに突然、「あっ、わかった、私、今わかったよ。」と言ったので、何がわかったのかなと思っていたら、「このテレビはね、本当はこうやって見るんだよ。」と言ってひざに乗ってきたんです。「『おかあさんといっしょ』っていうのはこうやって見る番組だったんだ、今、やっとわかったよ。」と言うんです。そのとき、かわいいと感じると同時に、これは

赤ちゃんから育て直しを始めなければいけないんだなというのを改めて思いました。

色々大変なことはありましたが、中でも一番辛かったのは、食生活がなかなか安定しなかったことです。決められた時間に決められたメニューを食べる生活をしていたので、自分が何を食べたいかを考えることもほとんどなかったのでしょう。食べることというのは直接生きることにつながることなので、本当に不安でした。だけど、給食でバランスのいい食事をとっているので、とりあえずいいんじゃないかと割り切って過ごしました。

今年の１月に「転校して１年たったね。頑張ったね。」と言った後から、再び以前の生活の話ばかりをするようになり、「前の学校や学園の友達のことをどんどん忘れてるみたいなの。」と言うのです。「お別れのときに、忘れないでってみんなに言われたの。今は、新しい友達ができたから忘れてる日のほうが多くて。私っていけない子だよね。忘れるのはだめなことだよね。」と泣いていました。こだわりの強い子なので、１回そう思い込むとなかなか修正できません。何度も繰り返し言っているうちに何とか収まりました。本当に辛かったのだろうなと哀しくなりました。その後、突然「ずっとお母さんについていくよ。だって、私のことを欲しいって言ってくれたんでしょう。」と言ったんです。これは養育家庭制度としては正しくはありませんが、彼女は明確に理解できる子ではないので、「早く一緒に暮らしたいって、お願いしてこうなったんだよ。」と伝えました。いつの間にか、家族３人で一緒に食卓を囲み、私がつくったものを「おかわり、またつくって。」と言うようになりました。お風呂も自分からは入らないけど、あんなに嫌がっていたのが、体を洗わせるようになり、不思議な変化を感じています。１年半位経って、それまで何があっても元気だったのが、初めて熱を出し、体の緊張もやっと少し解けたのかなと思いました。「今の友達や学校の先生が夢に出てきたよ。」と初めて言ったのもその頃です。最近やっと家族旅行が実現しました。夕食のときに「楽しいね、こんなに嬉しい夜は特別だから、お部屋に帰ったら、お願い、３人で遊ぼう。」と言うので「何して遊ぶ？」と聞くと、「うーんとね、おちゃらかほい。」と答えるのです。「そんなのでいいの。」とびっくりしていると、「おちゃらかがだめなら、ずいずいずっころばしでもいいから、お願い、３人で遊ぼう。」と、本当に無邪気に喜んでいました。

多分、Ａちゃんの最大の願いは、普通の生活をすることではないかと思います。委託から２年近くたって､ようやくこのうちで暮らしていくと思い始めた様に見えます。訳もわからずに苦しみながら、自分の運命を受け入れて、与えられた場所で一生懸命に生きていることを、１人でも多くの方々に知っていただけたら幸いです。こういう言葉にならない叫びをより正しく伝えるのも私たちの役目でしょう。この瞬間だけにでも、皆さんの心の片隅にこの子を置いていただいたら本当にうれしく思います。

３　養育家庭って、子供にとって「特別」な大人がいること

【里母】

私の家庭は、夫と私と３歳のときから８年間一緒に生活している女の子と、３人家族です。数年前、通っていた教会の入口に養護施設の園長さんが書いてくださった手紙と養育家庭のパンフレットが置いてあり、東京都にこのような制度があることを知りました。以前、私は甥（４歳）を１か月預かることがあり、その時、この子を預けられる親戚も、友人もいなかったら一体どうするのだろうと思った記憶をこのパンフレットを読んで思い起こしました。私たちも何か役に立つことがあるかもしれないと思うようになり、何年か悩んだ末に養育家庭に登録をしました。

登録をして１年くらいで長期のお子さんを紹介され、交流を始めました。面会に行ってもなかなか近寄ってきてくれず、だんだん慣れてきたころもあまり楽しそうでなく、大丈夫かなと心配になったりしました。乳児院から家に連れて帰る日も、嫌だと言って大泣きされ、嫌がる子を連れて帰る人さらいのような状態だったのを覚えています。口蓋裂という障害もありました。子育て経験のない私たちなので、本当にやっていけるのかなと、心配になりましたが、思い切って引き受けました。

保育園（３年）も考えましたが、私たちは子供にとって特別な人にならなければと思い、愛着関係を築くためパートをやめ、幼稚園（２年）にして、１年間子供とじっくり、ゆっくり過ごそうと思いました。来たばかりの頃は、電車に乗っても、家の中でもずっと私にしがみついていました。１５キロと結構な重さだったので、いきなりお母さんになりずっと抱っこすることはすごく大変でした。また、試し行動で、家の中のありとあらゆる扉、引き出しを開けては片端から中にあるものを出し、私は出したものの片づけに追われていました。家事がなかなか難しくて、夫に理解してもらい大分手を抜かさせてもらいました。土日は夫が子供を公園に連れていってくれて、一人の時間をつくってくれました。

生活が落ち着いてきた頃に、子供が１日に何回も「ママ大好き」と言ってくれるようになりました。その一言でそれまでの大変さが吹き飛び、子供との時間が楽しくなってきました。預かって４、５か月後頃、乳児院に連れていきました。懐かしい保育士さんとお会いしてすごく楽しそうに遊んでいたので、帰りはどういう反応をするのかと内心心配していましたが、ひとしきり遊ぶと満足したように、子供が自分から「もう帰ろう。」と言ったのです。それを聞いた時に、ああ、うちに来る時はあんなに泣き叫んで嫌がったのに、今はうちが帰る家になったのだなという感動がありました。

５歳の時に真実告知をしました。私のお腹から生まれたのではなく、生んだ人は別にいること、私たちはあなたが世界で一番大好きで、今は私達と家族なのだということをお話ししました。その日はちょっと泣きましたけれども、次の日にはけろっとし

て幼稚園に通っていました。その後、時々思い出したように質問してくることもありますが、子供の理解できる範囲内で聞かれたことには話していこうと思っています。

ある時、私が熱を出して寝込んだときに、当時小学１年生くらいだった子供が「大丈夫？」と看病してくれました。お盆にお水とアイスノンを載せて、ヨーグルトを持って、こぼさないように、落とさないように、抜き足差し足で、一生懸命よたよたしながら持ってくるのです。それを見たら本当にほほえましくて、かわいくて、「〇〇ちゃんがいてくれて本当にママ助かったわ。」と言ったら、にこっとして、「だって私がお熱出したときに、ママがお水運んでくれたり、看病してくれたから、今度は私がする。」と言ってくれました。施設だったら、保育士さんの具合が悪くなると他の保育士さんが代わってお世話してくださると思います。でも、家庭の場合は、主人は仕事に行っているので、子供が「自分の出番だ。何かしなければ。」と思って、一生懸命お世話をしようとしてくれたのでしょう。そういうのを見ると、子供は助けられる側、お世話される側ばかりではなくて、時には子供が支える側というか、助ける側に回れることがあるのが、家族なのではないかと思います。

周りの方の理解という面も、私は本当に恵まれていると思います。両親にも、最初はちょっと反対されましたが、今では家に電話をかけてくると、娘の私のことよりも「〇〇ちゃん、元気？」とまず子供のことを聞いてきます。また、近くに住む友人にも助けられました。一緒に公園に行って他愛ない話を聞いてもらったり、子育ての先輩としてのアドバイスをもらったりしたことで、本当に楽になりました。児童相談所の方々のお話や、里親さんたちの集まりにも顔を出し、いろんなお話を伺い、研修で学び、それぞれ皆さんも頑張っていらっしゃるのを聞くと、１人ではないと思えてとても励まされました。今思うと、「頑張りなさい」という励ましではなくて、ただ横にいて話を聞く暖かいまなざしに、本当に助けられてきたのだと思います。立派なお母さんをやらなくてはと思うと疲れてしまうので、煮詰まったときにはＳＯＳを出せる、弱音を吐ける場を自分のそばに作っておくことはとても大事だと思っています。

子供が大きくなれば、反抗とか、小さいときとはまた違った大変さがあると思います。それでもやはり私はやってよかったと今、思っています。子供を通していろいろな経験をさせてもらいました。私ってこんな面もあるのだとがっくりする思いもたくさんあります。足りないところがいっぱいある私達でも、子供にとって特別な大人がいるということはとても大事なことだと思います。この子が大人になって自分の人生を振り返ったときに、実の親とは暮らせなかったけれど、自分はたくさんの人に確かに愛されてきたという実感を持てるようになってほしい、生まれてきてよかったと自分を肯定できる大人になってほしいと思っています。家族を必要としている子供の「特別な大人」になってくださる養育家庭が１つでも増えることを願っています。

４　学園祭のバトンパフォーマンスに泣き笑い

【里母】

私たちは結婚当初から、子供が１０年できなかったら養子縁組をしようかとよく話をしていましたが、私の仕事が大変忙しく、なかなか行動できませんでした。けれど勤務先の小学校で、母親の育児放棄により施設入所し転校していった５年生との出会いが、私の人生を大きく変えました。何度も我が家で預かりたいと思いましたが、教師としてどんなに頑張っていても一人の子供を救うことができない現実をその時感じました。我が家でも子供を預かれないかと調べていた時、養子縁組という形以外でも子供たちの支援をすることができる「ほっとファミリー」の存在を知りました。

すぐに申請しましたが、私も母になれるという嬉しさと、共働きの私に本当にできるのだろうかという不安が入り交じっていました。児童養護施設の実習では、子供たちが肩を寄せ合い一生懸命生きている姿を想像することができました。きっと私たちができることがあるはずだと感じ、性別、年齢に関わらず我が家に来たいと思ってくれる子なら、誰でも受け入れようと新たな決意をしました。

登録して半年以上たって、私立中学３年生の女の子の依頼がありました。目のぱっちりとしたかわいい子でした。しかしどこかおどおどして、いろんなことを見ないようにしているように感じました。でも我が家のラブラドールにもすぐに慣れ、初めてのお泊りでは一緒にハンバーグを作り､緊張しながらも笑顔で食事をする彼女を見て、もううちの子だと思えている自分がいました。スリッパや靴を左右反対に履くような子で、何だか体中に大きな膜を張って様々な敵から身を守り、痛みや悲しみを感じないようにしているようでした。買ってあげたラジカセもあっという間に壊しました。決してわざとではないのですが扱いがとっても雑で、ガチャガチャといじってしまうのです。自分がされたように、周りの物や人も大事にできない彼女を見て、胸が痛みました。ありがとうの意味を一緒に考えたり、ごめんなさいの魔法を教えたり、人は一人では決して生きてはいけないこと、望みは願うことから始まること、人には投げた石しか返ってこないこと、何かがある時はもちろん何もない時でも、毎日時間を見つけては彼女に語りかけました。もちろん怒ることも一杯ありました。きっと彼女は今でも私のことを怖い母だと思っていると思います。だめなことはだめ、教師としての私の生き方でもあり、母としての私の信念でもあります。人を傷つけること、自分を傷つけること、命を粗末にすること、これはどんな理由があっても私はあなたを叱りますと、いつも話してきました。

そんな彼女との思い出の中で嬉しかったことを紹介します。彼女は本当に恥ずかしがり屋で、人前で話をしたり表現したりすることが苦手でしたが、だんだん変わり、英語の勉強がしたい、高校受験をして一からやり直したいと言ったのです。勉強がで

きる環境がなかったので仕方がありませんが、相当な努力をしないと入れない状況でした。それからは朝５時に起きて里父と数学の勉強、夜の１０時まで塾。努力の甲斐あって、下から数えた方が早かったクラスの順位も５番で中学を卒業、念願の英語漬けの高校生活をスタートしました。もちろん頑張ったのは彼女でしたが、家族みんなで勝ち取った合格でした。また里子支援として塾の費用が出たことは本当に有難かったです。どんなに学ぶ意欲があっても環境が整わないと夢は現実となりません。彼女もこのことをいつも感謝していました。

高校ではバトン部を選びました。表現するのが嫌なのではなく表現したいけれど、どうしていいかわからない、自分の気持ちや思いを表現できる人間になりたいということだったのだと思います。毎日遅くまで部活をし、勉強と部活の両立が目標になりました。そして初めての学園祭。あのおどおどして人の陰に隠れていた彼女が、満面の笑顔でバトンを回し大きく体を動かして踊っているのです。教師として子供は少しずつ変化し成長していくと分かっているのですが、自分の子となるとその成長よりも日々のだめなところばかりに目が行き、叱ってしまっていた自分がいました。もう涙が止まらなくて、気づけば私は泣いて笑っていました。ああ、この子を育てていてよかったと思えた瞬間でした。そんな彼女が、将来英語の教師になりたいと言い始めました。教師という仕事の魅力を知っている一方、彼女がいろいろな課題を持ったまま教師になる大変さも分かっている私は大反対しました。しかし彼女は「教師になる」の一点張り。私の大先輩の先生や児童相談所の方たちと話をし、夢を追い続ける彼女を私たち夫婦は見守ることにしました。指定校推薦で大学入学を果たした彼女は我が家を出て巣立ち、英語の教師を目指します。私が学校や研究で忙しいときは、家事の殆どを彼女がやってくれます。彼女が作るチキンアボカド丼は私もかないません。

私たち夫婦は里親になっていなかったら味わえなかったたくさんの喜びと共に、里親になったからこその苦難もまた味わいました。これまでの彼女の生い立ちの中で獲得することができなかったことが壁になっている時は、本当に歯がゆい思いをしました。でも失敗の後に成長する彼女を見ることが喜びにつながっているのだと思っています。

仕事が忙しく、彼女との出会いが里親として最初で最後かもしれないと考える時もありました。しかし彼女の成長が私たちに勇気を与えてくれました。里親を続けることは、嬉しいことに彼女の希望でもあります。里親、里子という家族の形も本当の家族の形なのだと彼女が教えてくれました。里子は決してかわいそうな子ではなく、ただ、生きる喜びを求めているのです。誰もが共に生きる社会、私の一歩もそこから始まりました。我が家に来てくれる子がいる限り里親を続けていきたい、そして成長した里子たちが、同じように手を差し延べる大人になったら素敵だと思っています。

5　一緒に暮らし始めて紡いだ幸せの糸

【里母】

小学校３年生のＡ子をお預かりすることになって、１年３か月が過ぎました。面会の時は、夫と私と社会人の次男の３人でＡ子に会いに行きました。私たち夫婦のことを何と呼ぶのかということを、Ａ子に児童相談所の方が聞いたとき、Ａ子は今まで自分の周りにいた人たちとさようならをするように手を振って､私たちのことを｢パパ、ママと呼びたい。」と言い「私たちの姓を名乗りたい。」とためらうことなく言いました。

Ａ子が里父に望むことは「一緒に遊んでくれてちゃんと仕事をするパパ」でした。里母に望むことは「パパが帰ってくるまで子供の面倒を見てくれて、お洗濯をサボらずにやってくれるママ」でした。児童相談所からは、Ａ子にそっと寄り添って、不安な気持ちを受け止めてあげてほしいということでした。

Ａ子はパパがいなかったため、パパに憧れていたようで、夫の膝の上に乗ったり、おんぶされたり、赤ちゃん言葉で甘えたりと大はしゃぎで、夫もかわいいＡ子にメロメロになりました。

Ａ子は現在でもそうですが、私のお布団とＡ子のお布団をぴったりつけなければ眠れないのです。2 人の枕もぴったりとつけなければ嫌で､少しでもすき間があくと｢だめだめ、あいたらだめ。」と言ってくっつけます。

また、Ａ子は現在でも夜だけではなく朝も昼もひとりでトイレに行けない、洗面所に行けない、お風呂に入れないといった傾向にあります。「何で私はこんなに怖がりなんだろう。」と自分で不思議がっています。しかし、学校ではひとりでトイレに行っていますのでよしとして、家では朝、昼、晩とＡ子のトイレ、洗面所、お風呂に私自身自分でも御苦労さんと思いながら今でもつき添っています。

またある日「ママの背中にお手紙貼っちゃった。」と言うので、背中に手を伸ばして貼ってあるビニールテープをはがしたところ「タロウ大好き」と書いてあります。タロウとは同居中の社会人の実子です｡｢Ａ子ちゃんはタロウのことが大好きなのね｡」と言うと「ううん。違うの。ママがタロウのことを大好きなの」と言います。「タロウはもう社会人だし、ママはＡ子ちゃんのことばかり考えているのよ。」と言いましたが、このころはなかなかこちらの思いもＡ子には伝わりませんでした。

現在でも、姉妹のように仲の良い犬のミミといつも私の膝を奪い合い「私のママをとったらだめよ。」などと犬のミミに向かって言っています。先輩里親さんから、実子と里子の年齢が近いとやきもちをやいてうまくいかない、という話は聞いていましたが、まさか犬と社会人の実子にやきもちをやくとは思っていませんでした。

「里子は里親がどんなに愛情を注いでも注いでも足りない」という里親さんの話を

聞いたことがあります。私は、委託を受ける前から児童相談所のサロンに顔を出していました。サロンでは里子との葛藤の日々を里親さんたちが口々に漏らしていました。Ａ子が来たころは夏休み中でしたのでサロンはなく、里親さんたちにも会うことはできませんでしたが、あの里親さんがあのようなことを言っていた、あの里親さんも、とそのときの話を思い出し、その話が私の支えになりました。

長い夏休みも終わり、新しい学校での生活が始まり、明るく人懐っこいＡ子はお友達もすぐできて、情緒も安定してきました。しかし、学校に登校するときには不安がりましたので、私が付き添って登校しました。初めは家から学校まで。次は家からスーパーまでとだんだんと付き添う距離も短くなっていきました。

２か月が過ぎたころ「もうここからはひとりで行けるから。」と言って、Ａ子は私と別れて走り出しました。私がＡ子の後ろ姿をじっと見守っていたところ、Ａ子は１つ目の信号のところで振り返って「もう大丈夫だよー。」というように大きく両手を振りました。何だかじーんとして涙が出てしまいました。

我が家で暮らし始めて３か月が過ぎたころ、入院中だった大好きなＡ子の祖母が亡くなってしまいました。Ａ子を育ててくれた大好きな祖母の死も乗り越えて、ますます我が家での暮らしにも慣れ、学校での生活も充実してきたころからＡ子は「ママに抱っこされていると安心する。この家でずっと一緒に暮らしたい。」と言うようになりました。

養育家庭は養子縁組ではありません。幾らＡ子のことが自分の子供のようにかわいくても自分のものにしてはいけないのです。東京都の事業ですから、東京都からお預かりしている大切なお子さんだと私はいつも自分に言い聞かせています。Ａ子とどのくらい一緒に暮らすことができるのかわかりませんが、将来自分の力で働いて、自立した人間になれるようにＡ子を育てなければなりません。

Ａ子と最近些細なことで口げんかをしたことがあります。Ａ子は自分が悪かったと思ったのでしょう。その日の夜、お布団を並べて寝ているときに、私の人差し指に自分の指をトンボがとまるようにとまらせて眠るのです。互いに言葉はありませんでしたが、私は心の中でくすっと笑ってしまい、Ａ子のことが本当にかわいいと思いました。

これからどのような生活が待っているのかわかりませんが、今の私はＡ子と暮らす毎日がとても幸せです。どうもありがとうございました。

６　家庭の中で心を育む

【里父】

私は里親を始めて９年になります。受託当初３歳だった男の子Ｍが今年中学１年生に、受託当初２歳のＳが今年小学校１年生になり、現在男の子２人を里子として養育しております。大変ににぎやかな毎日です。また、これまでの間、高校１年生の女の子Ｎを１年間受託し、また一時保護として３人の子と出会ってまいりました。

受託に至る場面もそれぞれ違い、Ｍは一時保護所からの委託、Ｎはフレンドホームとして引き受けていたのを途中で里子として受託いたしました。また、小学校１年生のＳは乳児院に３か月ほど面会に通っての委託となりました。三者三様の受託ですが、児相から委託の話があると、今度私たちのところへ来てくれる子はどんな子かなと心がときめき、出会いから受託に至るまでの心の通い合いなど、一人一人さまざまなドラマが生まれます。

９年前に最初の里子、３歳のＭを受託したときのことです。我が家に連れ帰り、改めて「今日からＭのお父さんだよ。私がお母さんだよ。お帰りなさい。」と二人で言ってＭを抱きしめました。Ｍは「うれしい。」と小さな声で言い、家内の首にすがりました。３歳の子供のその言葉に、大げさな言い方かもしれませんが、心の叫びのようなものを感じました。

ある施設へ実習に行ったときのことです。幼児の男の子をお風呂に入れてやってほしいと言われ、「今日はこの子たちとお風呂に入れるな。」と思って楽しみにしていましたところ、施設の職員の方から「大人は着衣のままで洗ってやってください。」という指示がありました。湯船の中でゆっくり子供たちを抱いて遊んであげようと計画していた私の思いは、もろくも崩れてしまいました。よく考えてみれば大勢の子供たちがいる施設でそれができないことは当然のことでした。施設には施設の良いところがたくさんあることは承知していますが、子供たちに必要な親子の団らんや安心感などを考えると、家庭に優る心の育みの場はないだろうと思っています。

家庭ならではという体験を１つお話しいたします。私は５年前の夏に父を亡くしました。父はおじいちゃんという立場で里子たちをとてもかわいがってくれていました。当時２年生になっていたＭに対しては、幼いころから近くの公園で一緒に虫とりをしたり、夏休みになるとラジオ体操に一緒に行ったりして、楽しんでいました。Ｍもおじいちゃんが大好きでした。

父はその５年前の春先に体調を崩して入院しました。Ｍは病院にいるおじいちゃんに毎日絵や手紙を書き、病院に行く私にそれを託しました。父も病室でその手紙を毎日首を長くして待っていてくれました。父の枕元には瞬く間にその手紙や絵があふれました。看護師さんは、その全部を父のベッドの周りに貼ってくれました。父はそれ

を見ながら「楽しいベッドになったな。Mのおかげで元気になるな。」と満面の笑みをたたえて喜びました。

その後お医者さんから自宅療養の許可がおり帰宅した際には、頻繁におじいちゃんのいる部屋をのぞいて、おじいちゃんが起きていればベッドの横へ座り、楽しく話をしておりました。父は「Mはわしの命の恩人や。Mが来てくれるとおじいちゃんは元気になるわ。」とMの手を握りました。Mはその言葉がうれしくて、足しげくおじいちゃんの部屋へ通いました。「おじいちゃん、おじいちゃん。」と言ってMが父の部屋へ通う姿、Mの手を握る父の姿、２人の光景がまぶしく、尊く輝いて映りました。もしかしたら間もなく生涯を終えようとしているのかもしれない父の命。里子としてやってきたMの命。その命と命のやりとりの暖かさ、優しさ、２人の姿に不思議な絆の世界を見つけて私は胸を熱くしました。

おじいちゃんが亡くなった年の冬休み、Mは書き初めで賞をもらいました。学校からもらった賞状を、まずおじいちゃんの写真の前で広げました。また、翌年の夏休みの早朝ラジオ体操最終日には、もらった缶ジュースやお菓子に手をつけず、おじいちゃんの写真の前に供え、「おじいちゃんと一緒に飲むんだ。」と言って写真を見ながら飲んでいました。Mは中学１年生になりましたが、今でも父の写真の前には、学校で作った作品や通信簿、お菓子などが置いてあります。今もMの心にはおじいちゃんが生きていると私は確信しています。

小学校１年生になったＳがぐずっているときに、Mがさりげなく自分のおやつをあげたりする場面を見ますが、こんなときにはおじいちゃんの暖かい育みの応援を受けたおかげだと思っています。些細なことですけれども、家庭だからこそできる心の育み、家庭の絆の確かさだと私は思っています。

里親をしておりますと周りの方たちから偉いですねとか、大変ですねとかよく言われます。一方通行の見方をすると、助ける側と助けられる側に分けられてしまいますが、決してそんなことはありません。この小さな命たちもちゃんと家庭の中で役割を持って、フルにそれを発揮してくれているなと思います。私がちょっと疲れて休もうと思っているときに「お父さん、キャッチボールしよう。」と言って子供がやってきます。しぶしぶ外に出て体を動かしながらふと、この子たちが私の健康を支えていてくれる、この子たちのおかげだと思います。

家庭には安らぎや安心や確かさや信頼、そして役割があります。もちろんけんかやトラブルもしょっちゅうありますが、何が起こっても揺るがない安定の中でこそ心が育まれていくように思います。

7　地域で育てる

【里父】

我が家には３人の里子がおり、皆３歳前後できました。１人目の女の子は現在小学４年生、委託して７年と６か月、２人目の女の子が現在２年生、５年と８か月、３人目の男の子が現在４歳、２年と７か月経ちました。

１人目は私が会社をやめて早速我が家に来ました。はっきり言って交流の時期は別人でした。施設にいるときは、とってもいい子です。ところが一歩我が家に来たら豹変しました。当時は大体保育士さんは女性でしたが、我が家に来たらむさくるしい親父と３歳の女の子二人きりです。家内が朝出かけるときには大泣きでした。最初の１週間がもう大変です。もう疲労困憊で何が一番楽しかったかというと昼寝です。子供を寝かしつけたときの気持ちの安らぎ。でも、そうするとなぜかおもらしするのです。結局着替えという仕事が増えました。

１年経ちまして、我が家では幼稚園ではなく保育園に入れました。毎日家にいるということはとてもつらく、このままでは私がだめになってしまう。ということでパートに出るため保育園に入れました。このパートは今でもやっていますが、すごくいいです。週に月水金の３日、１日６時間労働。このぐらいでも外に行って発散するということは、男にとっては最低必要な気晴らしです。

２年たったころ２人目の話がありました。この子はある意味寡黙な子で全く泣きませんでした。最初に受けた２歳違いの子と女の子同士でそれなりの遊びをし、１人目よりは試し行動が少なかったような感じです。２人目も保育園に入れました。ほっとファミリーになられる方にとっては、あえて推奨しますけれども、正直１人よりは２人のほうがいいと思います。

２年、３年たつと、２人目の子の行動が変わってきました。ずっと寡黙な子がだんだん自分の心を開いてきたという感じで、泣かない子だったのが泣くような環境になってきたのです。それまでは泣けなかった環境だったのかなと思いました。これにはある意味ほっとしました。

すると今度は３人目の話が来ました。３人目は違う意味での大変さがありました。若干遅れている傾向がありまして、通院も今でもしています。それでも言っていることがわかっているのかわかっていないのか、つかみどころがない。今でも何やっているのかなと首をかしげたくなるような傾向にはあります。

ただ、一番下の子は若干の遅れのある子の特徴なのか、人懐っこさはあります。ですから、多分皆さんの誰かが我が家に来たとしますと、すぐ抱っことかお膝の上に乗っかってきます。我々としては若干かちんときて、行くなよと、正直な話思うのです。それはそれとして、少しでもその子の心のよりどころになればと思い生活しています。

私が抱えている悩み事はＰＴＡです。息子と娘の時にもやってきたのでＰＴＡが別に嫌なわけではありません。ところが、私が５７歳に対して相手が３０代なのです。一緒にやるというのはつらいのです。ですから、これは里親になられる方の悩みの１つにはなるのではないかなと思うんです。今はできるだけ本部のほうには行かないように末端で静かにしています。そういうのが悩みと言えばちょっとした悩みですね。

私は今、地域とのコミュニケーションをかなり大事にしようとしています。「子どもフェスティバル」という地域のイベントがあるのですが、子供に関係する３団体が協賛して、子供のイベントを大体産業祭に合わせて行っています。そこへ小学生２人の女の子はお店屋さんとして参加しました。普通というと御幣がありますが、できるだけ普通の家庭の子と同じような体験をと思い、地域の子供の活動に触れさせています。

そんなところで、レスパイトという、里親をお休みできる制度がありますけれども、我が家に関してはそれを使わなくても何とかなってしまいそうな雰囲気です。何かあればそういった地域とのコミュニケーションをよくしておりますので、ちょっと見ていてということも平気でできます。できるだけ自分たちの中で解決できるような方法をとって、子供にも負担をかけず、伸び伸びと養育したいと思っています。

また、杉並の例の事件のことは家内と今でもよく話します。なぜああなってしまったのかということを我々もよく話して、我々がならないようにしなければいけない。あれは多分夫婦が子供に対して話し合っていなかったのでないか、会話が少なかったのではないかと思います。杉並の方が孤立をしてしまったために、追いつめられる空間がどんどん膨らんで行ったのではないか。それが結局あのような形になってしまったのではないかと思います。

ですから、我々夫婦であれば夫婦円満、情報の共有をしていかないとまずいなという思いがあります。子供を大切にとは思っていても、そういった状況下に置かれれば、この私でさえなってしまうでしょう。最初の子には年がら年中嫌われて泣かれ、こっちがパニックになってしまうということはあります。ぜひ興味があって、ほっとファミリーになりたいなという方がいらっしゃれば、そういった点も一つ頭の片隅に入れていただいてほしい。まずは里親になる側の心の健康。もちろん体の健康もありますけれども、それがないとやはり子供は預かれないなというのが偽らざる気持ちです。

８　やがてひとり立ちしていくあなたへ

［里母］

私が里親登録をしたのは平成１６年の１１月なので、今年でちょうど丸８年になります。私はひとり親なので、里親はできないと思って諦めていたのですが、ちょうど８年ぐらい前にひとり親でもできるということを聞き、では、ということでまずは体験発表会に行きました。そこで、やはり大丈夫ということだったので、すぐに児童相談所の職員に相談をし、登録研修を受けて登録されることになったのです。

当時、私はまるっきりフルタイムのひとり親だったのですが、家族には母と娘が同居していました。母は年老いていましたけれども、２０歳以上の補助者が同居していることという要件に合ったので、母に補助者になってもらいました。現在は、社会人になった娘が補助者の存在になってくれています。

今年の３月、まもなく２年生になろうかという高校１年生の女の子が一時保護所から私のうちにやって来ました。委託されてまだ８か月しかたっていないのですが、登録から８年目にして、初めてお預かりしたお子さんです。この８年の間には、面会交流した幼児さんもいたのですが、さまざまな理由で委託にまで至りませんでした。今回、高校生だから養育の大変さも無いだろうなと思っていたら、幼児とは違う課題がありました。小さいときから見ているお子さんではないので、それなりに彼女には彼女の生きてきた歴史があります。それと私の持っている価値観をすり合わせていくという作業で今も苦労しています。

とても真面目な高校生なんですが、その分とても地味で、自分の思いをあらわすことが苦手な子なのです。すぐ口ごもってしまうし、私がずばずば言うほうなので、そうすると答えられなくて真っ白になってしまうのです。かわいそうにも思うのですが、これからは自分ひとりで生きていかなくてはいけない子だからこそ、そのためのスキルを何とか身につけてもらいたいと思い、結構厳しいことも言っています。彼女が私の家から出たあと、困ったときに助けを求めていける一つの場になれればいいかなと、そういうふうになりたいなと思っています。

彼女は進学希望なのですが、進学に当たっての経済的保障はほとんどありません。奨学金を申請した分全部もらえれば、何とか入れることは入れるかもしれないのですが、入った後の経済的保障は何もありません。彼女も多分、私のうちから出ていけば、住むところをひとりで探し、大学に受かったとしても、バイトをしながら学費を払い、一人生活をしなくてはいけないというところに放り出されてしまうのです。幾ら大学に入ったとしても、その後、施設のお子さんも、里子も挫折してしまうということが多いそうです。この前、彼女とそういうことで話したのですが、「あなたは別にかわいそうではないと思うよ、かわいそうだと思ってはだめだよ。」と言ったら、それはわかっているみたいでした。大変なのはわかるけれども、かわいそうではないのだ、

世の中には家庭の中にいてもつらい思いをしている子はいるのだから、それよりもあなたは家庭を出たというところで、その道を選んだのだから、つらくてもやっていかなくてはいけないのだと言ったら、それはわかっているようでした。里親になることをご希望なさっている方には、ぜひそういう子供たちもいるということをわかっていただき、たくさんの大人が手を差し伸べていただけるといいなと思います。

ひとり親家庭が里親になるというのは、可能ではありますが、個人的には、ひとり親家庭で仕事を持っていて里親になるのはかなり厳しいところがあると思います。援助してくれる人が同じ家庭の中にいないと無理なのではないかと感じています。私は、里親に専念しようと思って、仕事をやめたので、ひとり親でもできていますけれども。

また、日本の里親制度、里親、里子というと何かイメージが暗いですよね。諸外国はもうちょっと明るいと言うと語弊がありますけれども、割とオープンな感じですよね。だからせめてイメージを明るいものにできればいいかなと思ったのも、私が里親をやってみたいと思った一つの理由でした。

登録されてから委託されるまで、かなりの年数があって、その間はたして子供が委託されるのだろうかと不安になったり、あきらめかけたときに、まずは職員の方に相談するのですが、あらためて里親サロンに参加していればよかったなとつくづく思いました。里親サロンの仲間のところに行って、いろいろお話を聞いたり相談していれば、もうちょっと気持ちが軽くなったかなと思っています。ただ、里親サロンというのは、委託されていなかった身なので、どうも行くのが足が重たいというか気が重たかったのです。けれど、実際に行ってみるとそんなことはなくて、今の私の住んでいる地区のサロンは、委託されていない方でも毎回参加してくださっています。それだけ、参加しやすいところだと思うので、そういうところはどんどん登録後には活用なさるといいかと思います。

９　「そばにいるよ」親から子へのメッセージ～25年の軌跡から～

【里母】

東京の里親さんの中で、何だかかんだで、古いほうから４番目くらいになってしまいました。丸２５年過ぎて２６年目になっております。今まで長期の子供たちを３人ほど育てました。

本当に子育ては、あっちにぶつかり、こっちにぶつかりで、山あり山あり、谷あり谷ありの連続でした。けれども、考えてみてください、子供が１人、今まで施設や乳児院なんかでたくさんのお友達といた子が、たった１人で、幾ら交流していたといっても知らない家へ１人で来るのです。そして、赤ちゃん返りや試し行動で、この人は大丈夫かな、この家で何をしても大丈夫なのかな、ここまで騒いでも大丈夫かな、それを繰り返しやるのです。研修は受けていたものの、その場に立ってみると、もうどうしようもなくて。たまたま娘は仏教系の幼稚園へ入れましたので、毎晩寝かしつけるときに替え歌で、「お父さんとお母さんはあなたのことを大好きで、御仏様にお願いしてうちへ来てもらったのだよ」というふうに子守歌を歌いました。「可愛い女の子が来てもらって本当に嬉しいよ」と言っていたのですが、にわかママでは、寝かしつけても２時間おきに目を覚まして、隣にいないと泣く、色々なことをしていくと、だんだん自分の時間は持てない。今までは夫婦２人だけだったから、自分のペースでやっていたのが子供に振り回される。本当に疲れてきました。

この子さえいなければいいんだ、この子さえいなければ元に戻れると思い、そのとき、今でも本当にそのときの自分が怖かったですけれども、自分の中に夜叉がいる、それを主人に話しました。そうしたら「お前はよくやっている。よくやっているからぶつかるのだ。普通のお家は、子供ができておなかの中に十月十日育んで、そして産みの苦しみがある、だからまず十月十日やってみようよ。これが産みの苦しみだよ。」と言ってくれました。この時に、お前は何なのだ、お前は愛情がないのかとか、色々責められたら、きっと私はつぶれていたと思います。そんなことがあって、ゆっくり適当に手を抜いて、いいあんばいで行こうというふうに思うようになりました。

それから、真実告知、「あなたの産んだお母さんではないけれども、ここのお父さんとお母さんとは家族だよ」ということを改めて子供に言いました。それは小さいときから毎晩子守歌のように聞かせていたから「うん、わかっている。」と言ってくれました。なぜ真実告知が必要かというと、子供は大きくなってくるとだんだん、本当のお父さんかな、お母さんかなと色々悩みます。そのときに、前もってちゃんと産んだお母さん、お父さんではないけれども家族だよと伝えてあると、このお父さんとお母さんは私に嘘をついていない、本当のことを言ってくれていたということがわかるのです。

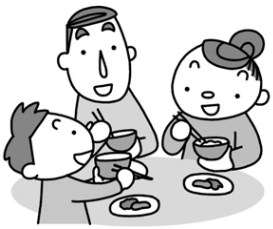
ただ、その真実告知にも第２の真実告知があります。皆さんも、中学、高校のころ、自分とは何だろうとか、自分の親は何だろうかと悩みましたね。それは、普通に成長していれば当たり前のことです。里子さんたちは、それにプラスして実の親は何だろうとか、私はどうやって産まれたのだろうかと悩むのです。うちの娘も悩みました。

そういうことがあったので、児童相談所のワーカーさんに話していただいたら、あの子は、「自分の親はいつもスカートを履いて綺麗にして、私を離したくなかったが、本当は何かの理由があって、体が弱かったのか、経済的に大変だったのか、そんな理由で離したのだろう。」と、すごく自分のことをいいように、いいように考えていたみたいなのです。ただ、話をしてもらって、自分がこうやって育っている間に、実親さんが私を探しに来なかった、それが彼女にはショックだったようでした。私はこのまま里親の家にいていいのだろうかと思い始めたようで、自分の居場所探しで夜中に色々なところへさまよい歩き始めました。ちょっと悪っぽいお友達のほうにも行ったり、色々しました。後になって娘が帰ってきたときに言った言葉は、「お母さん、私、色々なお友達がいて、そういう人たちのところへ行ったけれども、実の親子でも愛されていない子がいるんだね、私、色々やったけど、愛されていると思う。」と言ってくれました。

それから、小学校のときにお世話になった塾の先生のおじさん、おばさんが、いつも娘に「おまえは崖っ縁まで行って下をのぞくけれども、決して落ちていくことはないよ。」と言ってくれていたのです。だから、崖っ縁までは行ったけれども戻ってきたのです。

娘が大きくなって体験発表したときに言った言葉は、「思春期は、里子であろうが里子でなかろうがみんな悩むのです。もがくのです。そのときは、親は我慢のしどころです。」それは、帰ったときに御飯ができていること、お風呂がわいていること、寝るところがあること。それでいいのです。親は、ただただそばにいて、そばにいるよ、見守っているよというしかないのです。

いつか皆さんが、もし里親さんになってくださったら、みんなで育てていきましょう。世の中には、お年寄りがいて、障害のある子がいて、そして里子の子がいて、そんなのが当たり前になっていけたらいいなと思います。



10　私自身の自分育て

【里母】

私は、平成１１年の春ごろ、東京都の広報誌で児童養護施設の子供たちに夏休み、長期の休みなどに温かい家庭で過ごす体験をさせる募集があり、里親に申し込みました。でも、申し込んでみたものの、私たちは当時、年齢は５２歳で、病気でちょっと大きな手術をした術後で体調不良だったので、どうしようか随分悩みました。でも、主人の「協力するから。」の一言で、やってみようと決意したのです。

しばらくしてから児相から連絡がありまして、夫婦で施設のほうに出向きました。面接室に連れて来られた男の子に向かって、私が「おいで」と言うと、私のひざにちょこんと乗ってきたんですね。２歳半とのことでしたが、まだやっと歩けるようになった感じで言葉も少なく、感情が顔に出ず、実子を育てた経験から比べると、どうしたのかなと戸惑うことばかりでした。委託を受け、生活が始まると話しかけても、名前を呼んでも振り向かないというのか、返事をしないので、おかしいなと思いながらあちこちの病院で診察を受けると、慢性の中耳炎と急性のリンパ節の腫れで、たびたび病院に連れて行くということが多かったです。毎日、幼稚園、小学校が終わると治療のために耳鼻科のほうに通う日々でした。

また、対人関係が苦手で、成長の過程での特徴があり、「あの子、おかしいよ。」とか、周りの方々の偏見には本当に、本当に悩みました。それでも、温かく見守ってくれる友人、学校の先生方、学童の先生など、皆さんに助けられました。

あるとき、急にあごの下が腫れて高熱が出たので日曜診察の病院に連れて行くと、診察券を見るなり先生にすごい態度で叱責されたことがありました。きっと先生は、診察券が東京都のものだったので里子だと思われたんじゃないかと思います。それで、放ったらかしにしていて高熱が出て、慌てて連れて来たと判断されたような叱責のされ方でした。私たちとしては、こんなに一生懸命育てているのにどうしてわかってもらえないんだろうと思い、泣きながら病院から帰り、すぐに里親の先輩の方に電話をして愚痴を聞いていただいたんです。そのとき、その方に「息子さんが大きくなったときに、息子さんからもらう、ありがとうの通知表が大事なのよ。」と言われました。

それまで、本当につらかったり悔しかったりしたんですが、その言葉が胸に中にすとんと落ちて、そうだ、人が何と言おうと息子から大きくなったときに、お母さん、お父さん、ありがとうと言われる通知表が一番大事なんだなと思いました。

本当に子育ては普通の我が子でも一筋縄ではいかないことばかりですが、よく新聞やいろいろな本などに書いてありますように、まさに育児は自分育てだなと思います。

小学校３年生のときに引っ越しましたが、転校でまた一苦労でした。なかなか人になつかない、地域になつかないということで、それでも主人は６年生の卒業まで３年

間、朝、校門の前まで送って行きまして、私は担任の先生と連絡帳で交換日記のように細かに連絡を取り合い、学校行事や役員など進んで参加しました。本当は、余り人前に出てしゃべるのはすごく苦手で、どうぞと言われても、後ろでいいです、後ろでいいですというほうなんですけれども、そうも言っていられなくて、やはり学校に進んで出ることが多くなりました。そういう面は、本当によかったなと思っております。

中学校への進級は親子で話し合い、市の教育相談を受けたり、先生方と話し合いながら子供がいいというところへ進級したのですが、またいろいろあって、学校が合わなかったりで転校したりしました。そして中学１年生の３学期のとき、子供から、本当の親ではないと前からわかっていたと打ち明けられ、本当のことが知りたいと言われました。里親になったときのいきさつから、これまでの私たちの思いを子供に話しました。施設から引き取ったときに貯金通帳と、母子手帳と、ミッキーのお人形、それに、幼稚園、小学校になるまで、制服とか、かばんとか、教材とか、里子が書いた絵とか、いつかこういう日がくるからそのときに全部見せて、こうだったんだよと言って話そうと思って全部取ってありましたので、それを一つ一つ、全部見せました。本人としては、まだ中学生でしたので納得のいかない思いもあったかもしれません。

家族や友人、学校の先生方、または児童相談所など、多くの人たちに助けられまして、今年高校１年生になりました。中学２年、３年は塾にも通わせたり、家庭教師を頼んだりして全力投球という感じで、しかしなかなか成績が上がらなかったんですけれども、今では普通の私立の高校に入って伸び伸びと通学しておりまして、ああ、これでよかったんだなと思っております。

高校は小中学校と違って、保護者会とかあまりそういうことがないので、先日も三者面談に行きましたら、「特に問題はないですよ。勉強はもう少し頑張らなきゃね。」と言われましたけれども、子供が高校へ入学してからも夫婦で文化祭、運動会、スポーツの応援など、一緒に参加して楽しんでいます。

今、たくさんの子供たちが実の親からの虐待や学校のいじめで本当に尊い命を落としていますけれども、やはり私たち一人一人が我が子も他人の子も地域や社会の中で大切に育てていきたいものだなと思っています。

里親としてのこの１３年間は、忍耐や勉強の日々でした。この１０年、普通は定年退職したり、子育てが終わったりということで旅行に行ったり、自分の趣味をいっぱいする方もいらっしゃると思うんですけれども、私は里親になって本当によかったなと思っています。苦しいこともいっぱいありましたが、それ以上に私自身を人間として豊かに、強い心に成長させてくれた子供に本当に感謝です。私は、子供が自立してひとり立ちしてくれたときに、子供からもらえる通知表を楽しみに、地域や社会で役立つ生き方をこれからもしていきたいなと思っています。

11　生活を共にするということ

【里母】

まず、うちの家族構成からお話しします。うちは夫１名、小学校１年生の長女１人、年少さんの４歳の次女１人、夫の両親２人、７月に委託された中学３年生の女の子１人、計７人で生活をしています。今年の３月に里親登録をしました。

私たちがなぜ養育家庭になったのかというのをお話ししたいと思います。私の夫は、児童福祉施設の母子生活支援施設と子ども家庭支援センターが併設されているところの子供担当として仕事をしています。夫は、子供たちと仕事でかかわってきて感じたことがあるという話をしており、施設職員としてでは、さまざまな問題や背景を抱えた子供たちとの関係づくりをするには、越えられない壁があるということでした。限られた時間の中で関係をつくっていくわけですが、どんなに努力しても家族にはなれないなということを感じたそうです。子供をありのまま、本当に受け入れたいなと考えると、安定した家族というところの生活が必要不可欠なのではないかと、長年思い続けてきた結果、里親になるという結論を出しました。

実際、里親になるとは一体どういうことなのだろうか。うちには小学生と年少さんの娘がいますので、その子供たちにとっては一体どんな影響があるのだろうか。そんなことを毎晩毎晩話し合いました。その中で、やはりどの子にも一つ屋根の下で生活をともにする家族が必要なのではないか。そのことは私たちの家族にとっても、きっとプラスになることがあるだろうということで、養育家庭になることを決めました。

養育家庭になって、生活がどう変わったのかというお話をします。里親登録をして２か月後、お母さんと２人で生活をしている中３の女の子のお母さんが、体調を崩して入院することになってしまったので、一時保護をお願いできませんかという連絡がありました。とにかく食事をとることができて、寝るところがあって、今までどおりその子が学校と部活に通えるようにサポートしていただきたいというお話でした。中３という思春期で、実際の子育てではまだ小さい子しかいないので、どんな感じなのかもわからないけれども、おうちから学校に通えて、部活も今までどおり頑張れてということであれば、ぜひ力になりたいねということで引き受けることに決めました。

実際に彼女がやってくると、やはりわからないことや困ったことが日々、いろいろと起こりました。まず、受験生って一体何時に寝ればいいのかわからない。御飯もお菓子もよく食べるけれど、こんなに食べさせてしまっていいのか、など。大した問題ではないのではと思われるかもしれませんが、生活というのはこういう細かいことの積み重ねですので、これぐらいはいいかなというふうにありのままを受け入れるか、どこからどこまで、どう伝えるかということを、毎日夫婦で会議が行われていました。

最初は一時委託ということで、余り細かいことを言っても生活しづらいだろうとい

うのもあり、ちょっとのことは目をつぶり、どうしてもこれはと思うことは、遠慮しながら話をしていき乗り越えていました。ところが、６月の終わりごろに児童相談所から連絡がありまして、お母さんの体調がよくないということで、７月から一時委託から正式委託へと変更となりました。

普段、夕食の盛り付けや配膳をしながら「そろそろ御飯だよ。」と声をかけるとみんなリビングに集まってきますが、一番最後にリビングに下りてきた彼女が、私やおばあちゃんが食卓の準備を進めている最中に、どかっと椅子に座って、まずつまみ食いをするんです。それから「食べていい？」と言って、先にどんどん食べ始めるわけです。

これが何度も続いたので、夫が「まだ準備しているでしょう。よく考えて、少し手伝うとかしたほうがいいんじゃないの？」と言ったら、ぽろぽろ涙を流して泣いてしまいました。そんなに強く言われた感じではないと思ったのですが、涙を流すのです。すると、彼女は「今までは１人で食べていたから、どうしていいかわからなかった。」と言いました。そこで私たちはそうだったのかと気づき、「それは悪かったね。」と謝って「でも、家族みんなで生活するというのは、お互いを思いやっていかないといけないんだよ。」という話をしました。ほかにも、夕食の後、リビングのソファーに横になり、部活で疲れているのだろうと思うのですが、ぐうぐう寝てしまうのです。幾ら起こしても起きません。リビングをずっと占領している状態が続いたので、それも話をして、今ではそんなこともなくなりました。

赤ちゃんのうちから一緒に生活をして一つ一つ、これはこうやっていくんだよ、これはこういうふうにしていくんだよと教えていけば、自然に身についていくことなのかと思います。彼女の場合１５年間別の環境の中で生活をしていたので、急にうちのスタイルを強要はできませんが、お互い気持ちよく生活できるように、少しずつ調整をしているところです。

彼女が来てから半年です。今では文句も言うし言われるしという形で、そこにいるのが普通のことになりつつあります。いまだに日々驚かされることはいろいろありますが、最近ではそれも予測の範囲というか「ああ、またきたな。」という感じで、少し余裕が出てきました。

この半年間を振り返ると、手探りながらも関係が少しずつできていくのが喜びであり、家族になっていくのを実感しています。この先またどんなことがあるかわかりませんが、里親ってこんな感じなのかなというのが、ちょっとわかってきたところです。

12　仲間で支えあう

【里母】

私が養育家庭になって１０年が過ぎました。家族構成は、主人、私、成人している実子の息子と、委託１１年目になりました中学校１年生の里子のＡ子ちゃん、委託４年目の小学校６年生のＢ子ちゃんの５名です。

ある日新聞で里親の記事を読み、東京都へ電話したのを機にフレンドホームを紹介されました。４歳の男の子と交流をしている間に、もっと色々なことをしてあげたいと思うようになり、里親登録をしました。色々な事情でその男の子は里子に出させないということがわかり、フレンドホームはそこで終了しました。

その後、２歳の女の子がやってきました。２歳でうちに来たＡちゃんは家庭生活が初めてでした。私はすぐに家族になって仲良くなれると思ったのですが、すごく時間がかかりました。施設では一日何人も担当者がかわるので、私が作った食事を一緒に食べるなど、一日中私と一緒にいることがとても不思議だったようです。乳児院での生活リズムができていたので、うちに来てから生活習慣を直すということが大変だったようです。

うちに来たころは顔も無表情で、口数も少なかったのですが、慣れてくると笑顔も増えて口数も多くなりました。赤ちゃん返りやお試し行動もたくさんありました。泣き出すと１時間とか１時間半平気で泣いて、あやしてもだめでしたし、だっこしようとしてもだめでした。

４歳のとき、お正月、家族に年賀状が来て、Ａちゃんがお兄ちゃん、お父さん、お母さんと分けてくれたときがありました。そんなときに自分だけ名字が違うということに気がついて、すごく不思議そうな顔をしていました。私はそれを見ていて「Ａちゃんもお兄ちゃんと同じ〇〇の名前になる？」と聞いたら、「うん。私もなる。」と言って、そこから通称名を名乗っています。私は名字が変わったことですごく周りの反応が心配になって、いじめに遭ったり、何か言われたらどうしようと思ったのですが、意外と子供はさらっとしていて、いじめられることもなく、心配するほどのことはありませんでした。

下のＢちゃんが来て２、３か月経った頃、２人の会話でＢちゃんが「ねえねえ、Ａちゃんのママってどんなママ。あのね私のママは若くてきれいでおしゃれなの。」と言ったのです。私は陰で、私と真逆のことを言っているわと思い、向かいに座っているＡちゃんは「私はお母さんは知らないの。赤ちゃんのとき私を置いて行っちゃったから。私のお父さんとお母さんはここのお父さんとお母さん。私たちパパやママに捨てられたんだからここにいるんだよ。」と、そんなこともわからないの、と言う感じで話しているのが聞こえました。私はすぐその場に行き「何か理由があったんだよ。

お父さんやお母さんが捨てたんじゃないよ。会いたくなったら児相に言えばいいんだよ。児相が探してくれるから一緒に探そうね。」と言いました。私はその言葉を突然聞いたのでこれを言うのが精いっぱいでした。まさかＡちゃんが自分が捨てられたと思っている、感じているということは私も思っていませんでしたから、本当にびっくりして涙が出てしまいました。

子供との会話の中や子供同士の会話を聞いていると、子供の心の中が見えるときがあります。２人と向き合って、そのときどきの事例に児相や先輩里親さんに相談したりアドバイスをいただいて、私は山を乗り越えています。

私たち里親には、サロンもありますし、仲間がいます。サロンの最中ある里子さんが言った言葉で「ここの里子たちの仲間の中でしゃべるときには緊張しないでしゃべれるけれども、学校行くと緊張しちゃってしゃべれないんだよね。」という声を聞いて、今年の６月にジュニアサロンを作りました。ジュニアサロンに参加するようになり、Ａちゃんが「同じ立場の里子の状況が近くにあると思うと、ひとりじゃないんだと思えるし、ジュニアサロンに参加していると里親のもとに来て本当によかったと思う。施設だと心から話せる友達や大人は少ないかなと思う。里親のところにいるから心から話せる家族というものを知ることができたし、家族や友達、ジュニアサロンの仲間が支えてくれるから今の自分があるし、自分の生きる道ができた。真実告知も大人になってから言われるほうがショックだと思う。大人になってから、この人本当のお母さんではありませんと言われても信じられないよね。ずっと本当のお父さんとお母さんだと思って生きてきて、一緒に生活してきて突然違うと言われても、真実告知は小さいときに言われたほうがいいかな、小さくてもある程度ショックはあるけどね。」と、私がこの文を書いているときに横に来て、私の書いている文を読んで彼女はそう言っていました。

うちの２人も今、思春期に入り難しい時期でもあるのですが、学校や地域、児童相談所、行政、里親仲間の力を借りながら子どもたちの成長を見守り、これからも応援していきたいと思っています。

日々生活していると色々なことがあるので、里子と行き詰った時などにサロンで自分の思いをしゃべってリフレッシュして帰っていき、子供と新たに接することができます。もし里親さんになりたい方がいらっしゃいましたら、子供たちの幸せを一緒に願っていければなと思っています。里親さんからではなくても、私も最初はフレンドさんからでした。施設や乳児院にいるお子さんに１日でも普通のお家の体験をさせてあげられればいいなと思います。

13　すばらしい体験

【里母】

我が家は私と夫と、来月で満５歳になる里子の女の子Ａちゃんの三人、そして１２歳の犬を１匹飼っております。里親を始めるまでは夫婦共働きで、趣味が旅行ということもあったのですが、年７～８回ほど国内旅行や海外に行ったり、週末は毎週外食をしたりと、今風の夫婦二人生活を満喫していました。

里親をやっていると、よく、すごくお子さん欲しかったのねとか、子供好きなのねというように見られるのですが、正直に言うと、子供は嫌いではないですが、ぱっと子供のほうに寄る二人ではないですし、どうしても我が家に後継ぎが欲しいとか、お墓を守ってくださる誰かが欲しいとかは全然思っていませんでした。

じゃあ、どうして今こんな私たちに至ったかというと、３０代後半になって、このまま二人でずっと楽しく暮らしていってもいいけれども、６０、７０歳で人生を振り返ったときに、こういったことをやっていてよかったね、というのを何かしようということで、二人で探し始めたのです。

そのときに、私の仕事が出版関係で、たまたま東京都の養育里親の子供が主役の漫画を担当させていただいたのです。そのとき、養子縁組ではなくこのようにただ一緒に生活する家族がいるんだと知ったのです。

「どうする。登録だけだったらやってみる？」と私が水を向けたところ、夫の一言は「絶対無理。」でした。夫も私も他人と暮らしたことがなく、たとえ子供であっても､全く自分と血縁のない人間が一緒に家の中にいることは考えられなかったのです。しかし、登録をしなくても、登録をして受け入れている方のバックアップをするだけでいいんじゃないと話し、その後テレビで幾つも事件があり、それで夫も「じゃあ」ということで登録をしました。

登録して１年後くらいに、今うちに来ている女の子を御紹介いただきました。７月から交流が始まり、９月末の週末に試しに１泊、１０月末から２泊、１１月の連休を利用して３泊、その後は長期外泊して、１２月の彼女のお誕生日に委託決定をされたという次第です。

子育てをしてみると、無意識に自分の母が私にやってくれたことをしているなと感じます。例えば先月Ａちゃんの運動会だったんですが、お昼を持っていかないといけなくて、今年は他の家族の都合がつかず、私一人で子供と参加しました。前の晩からいろいろリクエストをもらって準備して、当日も朝早く起きて揚げ物をやったりしていました。それを後で近所のママ友に言ったら「うちなんか家族で行ってもコンビニでお弁当を買って終わりよ。」とか「普通大人一人と子供一人だったらお総菜屋さんで買って詰めるだけよ。」みたいに皆さん結構平然と言っていました。それが悪いと

いうことではないですが、母はそういうところをしっかりやってくださったので、それを私が無意識にやっていて、今うちに来ている子も、自分に家庭ができたらやってくれるだろうという希望を持っています。

うちに来たＡちゃんの変化をお話しします。今の彼女を見ると、かわいいとか、かしこいねとか、良いところがたくさん出てくるのですが、最初に彼女に会いに行ったときは、すごく暗い表情で、もしかして聴覚に障害があるのではないかというぐらい話しかけても全然返答がなく、言葉も遅かったのです。それが我が家に来たら、１か月くらいで、すごく固いつぼみがパッと花開くみたいに突然表情が明るくなったのです。親子自転車で後ろに乗せると、それまで歌なんて歌ったことがない子がいきなり歌い出したのです。乳児院の先生に報告や電話をまめにしていたので、その話をしたら「ええ、あのＡちゃんが！？　信じられない。」と、そんな感じでした。

私たちがこれからＡちゃんにしてやりたいと思っていることは、ちょっと格好よく聞こえてしまいますが、港という立場です。人生の航海でどこに行ってもいいのです。Ａちゃんには、私たちと血はつながっていないということはちゃんと伝えています。しかしこの間、突然ドキッとすることを聞くのです。食事をしていたら「お母さん、Ａちゃんはお母さんのおなかから生まれたんだよね？」と、知っているんですけれども言うのです。だから私は「ううん。残念ながらそうじゃなくて、育てているお母さんが私で、もう一人お母さんがいる。お父さんもいるし。でも、それはＡちゃんが自分で立って、探しに行ける力がついたら探しに行っていいから、それまでいろいろな訓練をしようね。」と言ったら「うん。わかった。」という感じで納得しました。ママ友に「こういうふうに聞かれて、こういうふうに答えてよかったのかな。」と言うと、「ちょっと酷じゃない。」という言い方をされました。しかし、私はＡちゃんを受け入れるときに彼女をかわいそうな子と絶対思わないことにしよう、と思っていました。今も他の家族と全く分け隔てなく暮らしています。

最後に、養育里親に登録された方、こちらを見てから決めようと思っている方がいらっしゃると思うのですが、絶対にそれ一途にならないで、ハンドルで言う「遊び」の部分を持っていただきたいと思います。必ず試し行動のようなものがあります。それは別に里子ちゃんだからというわけではなくて、自分自身の子供でも育てる者は煮詰まるときはあります。そのときは、適当に見守るだけでもいいのかなと思っています。里親をやってみて、里子のためだけではなくて、自分たち夫婦にとっても、とても素晴らしい体験をさせていただいていると思っています。

14　全てのエピソードが宝物

【里母】

６歳の幼稚園の年長さんと、３歳になったばかりの男の子の２人を養育しています。６歳のＡ君はちょうど３年半。３歳のＢ君は半年になります。実子はいません。

私たち夫婦が養育家庭に登録したのは今から４年ほど前。動機は子供がなかなか授からないということもあり、血がつながっていない子供であっても、養育ができるのであればと考えるようになり登録しました。学齢前の子供の養育を希望していたので、自分たちの年齢を考えすぐに申請をしました。申請後は、いつ委託の連絡があるのかと待ち遠しく、連絡をいただいた時にはうれしくて何十年かぶりに胸をどきどきさせながら子供の話を伺ったことを思い出します。それが今のＡ君です。

面会の前に福祉司からもらったＡ君の写真を主人がリビングに飾って、Ａ君の話題で毎日花を咲かせていました。そして面会の日、「委託されるＡ君です。」と紹介してもらいました。Ａ君は目が合った瞬間に泣き出してしまい、その日は抱っこすることも出来ず不安な気持ちで家に帰りました。乳児院では男性に接する機会が少ないため、交流当初は、主人になかなか慣れませんでした。３歳の男の子が我が家にいるという状況に慣れるのに、私たち夫婦もＡ君も時間が必要だったのですが、その時は何せ一生懸命で、肩に力が入っていたように思います。食事のことや睡眠のことなどうまくいかず、毎日疲れきり本当に大丈夫かと自分に自信がなくなっていったのを覚えています。乳児院や児童相談所の支援員さんなどに電話相談をして、その都度助言をいただいて手探りで子育てをしていました。Ａ君にしてみれば、３歳になる前に全く環境の違う場所に置かれてしまい、不安ですぐになじめるわけもありません。しかし、Ａ君は自分だけを見てくれる存在に、戸惑いながらも次第に心地良さを感じ、甘えることができるようになり、信頼関係も徐々に築いていくことができました。幼稚園や学校に通うことで安心した生活を体験し、積極的に地域の中で関係づくりをして、支援も大いに活用していきたいと思っています。

Ａ君との生活もすっかり軌道に乗って、委託から３年目の冬に、２人目の子供の委託の話が持ち上がりました。２人目の委託に関して、Ａ君に聞いてみると「僕、弟が欲しい。うちに来てほしい。」ととても嬉しそうにすぐに答えてくれました。余りにも即答だったので私が「小さい子が来たらテレビもゆっくり見られないし、おもちゃもとられちゃうかもしれない。大丈夫？」と意地悪なことを言ってみましたが「大丈夫、僕、お兄ちゃんになりたい。かわいがってあげられる。」という返事でした。そして、Ｂ君と面会になりました。Ｂ君はＡ君とは違ってとても人懐っこい性格で、会ったその瞬間に私たちの膝の上に乗ってくる子供でした。Ａ君とは、初日はお互いに遠慮があったのか、うかがい合っている様子でしたが、回数を重ねていくうちにＢ君

はＡ君のまねをしたり、Ａ君もＢ君のお世話をするほどになっていきました。福祉司の助言もあり、Ａ君の気持ちを第一に考えて交流を続けましょうと、面会するたびにＡ君に気持ちを確かめ、慎重に交流を進め、今年の６月にＢ君が委託となりました。Ｂ君はアレルギー体質で湿疹や、卵アレルギー等があり、まずはかかりつけ医を探すことから始まり、医者通いが始まりました。２か月ほど過ぎた頃、保育園に２人を預けた時、Ｂ君がおもちゃの取り合いでお友達の手をかんでしまいました。保育士さんに謝るようにと言われたのですが、Ｂ君は謝れず、その時Ａ君が「僕お兄ちゃんだから、Ｂ君のかわりに謝るよ。」と言って謝ったというエピソードに保育士さんたちが「すごくいい兄弟ですね。」と言ってくれ、私もとても励まされました。

また、Ａ君にとってＢ君の存在は自分のことを知る大きな存在にもなったようです。Ａ君には４歳のお誕生日に真実告知をしました。その後も折に触れ里子であることを伝えていますが、Ｂ君との交流の中で、Ａ君が自分と重ね合わせながら境遇を受け入れている場面がありました。例えば面会の前の資料で、もう字が読めるＡ君は、自分と同じ里親の名字じゃないことに気付きました。（Ａ君にはこの時本名を伝えていませんでした。）「これはＢ君を産んでくれたお母さんのお名前なんだよ。」と言ったらしばらく考えて、「じゃあ僕にももう一つ名前があるの。」と聞いてきたのです。そこで「Ａ君を産んでくれたお母さんの名前があるよ。」と伝えました。そういう話をしているときのＡ君はいつも淡々とした表情で聞いた以上のことを追求することはありません。だから、どのように彼がそれを受けとめているのかは私たちもはかりかねるのですが、私はいつもこういう話をするときには、真実をはっきり伝えるとともに、これ以外はほかのお友達と何ら変わりがないということも伝えています。ある日友達のお兄ちゃんから「本当の兄弟じゃないんだよね。Ａ君とＢ君。」と言われたのです。いつかそんな話も周りから出るとはわかっていましたが、その時は私が動揺してしまって、子供たちが受けとめるだけではなくて、里親としても一緒に乗り越えていかなければならないことがこれからもあることを実感しました。

今後、２人が成長の中で境遇の悩みを辛く思うこともあると思いますが、一緒に真実を前向きに受けとめていけるよう見守ろうと主人と話をしています。Ｂ君の４歳のお誕生日には真実告知をしたいと思っています。今までも、そしてこれからも子供たちにとって一番身近な安心と信頼のできる大人でいること、普通に家族として過ごすことで子供たちが大人になったときに、自分たちの家族をつくりたいと思ってもらえるようにお手伝いをしたいと思っています。幼少期に自分だけを見ていてくれる大人の存在は、人生に大きな影響を与えると確信しています。まだ４年足らずですが、こうして振り返ると、私達にとって養育家庭になってからの全てのエピソードが宝物です。これからもいっぱい宝物を増やしていきたいです。

15　隠れ応援団がいます

【里母】

６０代になってしまった夫婦と元里子の男子とで暮らしています。私達は子宝に恵まれず、中華料理店開業の方が先になってしまいました。開店後落ち着くと、やはり子育てをあきらめきれず､東京都の養子縁組里親に､その後養育家庭に登録しました。

小学校入学の翌日に会いに行き、交流を経て夏休みに大切なマスコットとともに引っ越してきました。交流中に行った豊島園のもぐらたたき大会で私は一番になり、アライグマのぬいぐるみをもらいました。子供はすごく喜んでくれました。こんなに喜んでくれるなんて親って幸せなんだなと感じました。委託前には施設で里子になって暮らすことの説明をした上で、子供自身が行くか行かないかを決定する話し合いが行われたようです。一晩考えて、里子になる決心をしてくれたそうです。ワーカーさんから、「里親制度は子供のよりよい幸せのためのものであって大人のためではない。」と言われていたのが、この時身にしみてわかりました。下町でゲームセンターあり縁日あり駄菓子屋もあるにぎやかな町の雰囲気が気に入った様子です。年齢が離れている親子３人も、ゲームやポケモンなど流行の物で仲よく遊ぶことができました。ゲームさまさまでした。ご近所の同学年の子供さんとも仲よくなりました。町内会長にも挨拶に行きました。店舗つき住宅なので里子のことは放っておいても広まっていきました。パートの中国のお姉さん２人にもよく遊んでもらい、何だかんだ楽しい暮らしが始まりました。子供がいるとこんなに和むものなのでしょうか。

子供は、生後７か月から乳児院、その後児童養護施設で暮らしていました。担当保母さんが他の赤ちゃんの世話をしていると､はいはいをして近づいて離れなかったり、「僕にはどうしてパパとママがいないの。」と保母さんに聞いたり、施設の集まりでお友達のママの膝があくとすぐ座りに来たそうです。我が家に来て「おじちゃんおばちゃんのことをパパ、ママと呼ぼうか。」と聞いたら返事がなくて、しばらくしてから、「パパ、ママなんかじゃないよ。」と上目づかいで睨んでいました。そこで夫が、クレヨンしんちゃんの「父ちゃん、母ちゃんにしようか。」と聞くと、すぐのってきて、そのときから私たちは父ちゃん、母ちゃんになりました。名前はそのままで里親姓にはしませんでした。商売をしているから店の名で呼ばれることが多いため不自由を感じませんでした。何よりも、施設で見た小学校入学の真新しいランドセルや文具に書かれた名前の文字が頭に刻み込まれていたので、このまま通してあげたいと思ったからです。夫が姓名判断の本で彼の名前を調べたら、徳川家康のようないい字画なのだそうです。いいことは残しておこうということになりました。学校では私たちが子供の姓で通しました。表札も子供と親の２つ出しています。

お店のみんなのおやつに焼き鳥を買いに行ってくれたら、帰る前に電信柱の陰でお

いしそうに食べていたこともありました。夜中急におびえて、玄関のほうへ走り出して悲しそうにしていることもありました。そんな時は眠りにつくまでおんぶしていました。なじんだ施設から知らない土地に来て、不安やいろんな思いがあるのでしょう。ゆっくり乗り越えようと思いました。商売にも力が入り、何事も学校と子供中心の生活サイクルが動き始めました。小さい頃は、施設の夏祭りやクリスマスには、里帰りのつもりで参加させてもらいました。とても喜び、楽しそうでした。施設長の先生から「この子たちは係累が少ないから、ここで御縁のあった方々や学校の先生とも長くつき合いをして、この子の知り合いをふやしてやるといいですね。」とアドバイスをもらいました。本当に味方は多いほうがいいですよね。私もクラスの役員やPTAの仕事を積極的にやりました。店のお客さんや子供のクラブや学校のママたち、今でも私たちには隠れ応援団がいることをしみじみうれしく思っています。

彼は小児疾患があり月１回大学病院へ電車で通うのですが、子供には大変でした。私もペーパードライバーなんて言っていられなくなり、練習に練習を重ね、お客の運転手さんに一緒に乗ってもらって走れるようになりました。小児疾患の「守る会」にも参加して相談や勉強もしました。今も続いています。ママ友や近所のお友達には、子供のプライバシーにかかわることなので話すこともできず、本当に助かりました。この疾患のため医師に風邪をひかせないように言われているのですが、気をつけても気をつけてもひいてしまうので冬は本当に辛かったです。「風邪ぐらいお前だってひくだろ、俺がひいたらなぜ怒る。」と車の中で、子供から思いっ切り文句を言われました。「悪かった」とぽろぽろと泣いて謝りました。こんな辛い思いも、やがて高学年になり体力がつくとともに心配がなくなりました。高学年にはまさかのいじめがあったのですが、理解あるクラスの母親の知恵をかり、先生に解決してもらいました。夫は「里親、里子といっても、里を取ったら親子だから、親子に違いないよ。」と言います。夫が１週間入院したとき、私が毎日行っているのに子供はなかなか行こうとしないで、気短の私は夫に「申し訳ないけど、息子は見舞いに来られないかもしれない、ごめんね。」と言ったら、何と「気にするな、俺たちにはもともといなかった子なんだからいいんだよ。」と言いました。子供には負担をかけたくないと思っているようです。その後子供はちゃんと病院に行ってくれ、２人はにこにこして話をしていました。子供も通院している頃だったからか、病院は大の苦手だったのです。

「６歳で来たのだから、１０歳になっても４歳ぐらい割り引いてその子を見てあげなさいね。」と勇気づけられたことを、何かあるといつも思い出しています。子供は大学４年生で、やっと就職が決まったので肩の荷がおりました。インコは雛が自分で餌を食べられるように成長すると、くちばしで突いて巣から追い立てます。私たちもその時期が近づいてきたようです。

16　いろいろな経験を大切な宝物に

【里母】

私は、保育園で保育士として働いていました。不妊治療に専念するために退職をし、病院の待合室のテレビで、虐待で子供が亡くなったり、怪我をしたというのを見るたび、どうして私のおなかの中に宿ってくれなかったのかと、本当に悔しいというか悲しい気持ちでした。不妊治療というのは、どうしても妊娠をすることがゴールになり、その先の子育てをするというところまで頭が回らない状態に陥ってしまっていました。そんな時に主人が里親の話を持ってきてくれ、ああ、子供が産めなくても子育てをするチャンスはあるんだなと気づき、養育家庭の第一歩を踏み出しました。今までは保育園から小学校への巣立ちをお手伝いしていたので、これからは我が家から社会に巣立つお手伝いができたらいいなと思いました。

里親登録されてすぐに６歳の女の子を１か月間お預かりしました。その子はすごくかわいらしくて活発で、家の中に子供がいるだけでこんなに明るくなるんだなあと感じました。お互いの関係や生活に慣れてくると、その子とどこまで踏み込んで関係を作ったらいいのかとすごく悩みました。先輩里親さんにそのことをお話ししたら「まずは彼女が安定した生活の中で、安定した心で過ごせるということが一番なんだよ」と言われ、ああ、そうか、彼女が安定した心で毎日が過ごせて、お母さんと会えない寂しさをちょっとでも埋めてあげられるように接すればいいんだなと気づきました。そして、彼女は元気にお母さんのもとに帰って行きました。

現在は２歳１か月の女の子と生活を共にして、１か月弱になります。写真ではちょっとふっくらした印象だったのですが、乳児院で担当の職員に抱かれている姿を初めて見た時には「あら、小さくてかわいいな。」というのが第一印象でした。初対面では周りの物々しい雰囲気もあり、彼女も何かを察したのか、大好きな職員のお膝に座って顔をしかめ、眉間にしわを寄せてじぃっと私たちのことを見ていました。目の前にあったおままごとを私たちの方にぽいぽい投げ、足で押しやったりしていました。３０分位一緒にいて、最後に握手で「バイバイ」としたのですが、その時彼女が私の手にタッチをしてくれました。これが、彼女とのファーストタッチだったのですが、すごく嬉しかったのを覚えています。

そして交流が始まりました。平日は私、土日は主人と２人で、毎日２～３時間の交流がスタートしました。最初は私がお部屋に入るだけで大泣き。だんだん小泣きになり、その後泣いているけど涙が出ない感じになり、最後には泣かなくなりました。個別のお部屋で私達だけの時間になってからは、乳児院の傍をお散歩したり、近くの公園に行ったりして、その頃からパパ、ママと呼んで貰えるようになりました。その後、家への外出となりました。初めて家で過ごした時には全ての部屋に行き、全ての棚、引き出

しを開け、中に入っているものを全部確認し、大冒険をしていました。ベランダから、銭湯の湯気がモクモクと出ているのを見て、電車の「しゅっぽっぽ」に見えたみたいで「しゅっぽっぽ、しゅっぽっぽ」と言っているのが、すごく子供らしくかわいい表現だと思いました。結局現在でもベランダに行くことを「しゅっぽっぽ」と言っています。

次に１泊で家に来た時は、前回の何がどこにあるかというのを全部覚えていて、用意していたおもちゃや本には一切目を向けず、テレビのリモコンや画面、パソコン、電話、インターホンの画面などを全て触って確認していました。お風呂にも泣かずに入り、お食事もよく食べて、楽しく１泊を過ごしました。しかし帰りの際には、乳児院に帰るということは言わなかったのに、多分わかったんだと思います。電車に乗った瞬間に大泣きして１駅で降りる一幕もあり、乳児院に着いてからも大泣きをしていました。そんな次の日の面会の時は明らかに今までと様子が違い、目を合わせずに遊んだり、今までは私の膝の上で御飯を食べていたのが「みんなと食べる。」「あっちで食べる。」と言って大泣きでした。その状況を踏まえ乳児院に相談し、これから外泊で別れる度に彼女の混乱が生じるのではないかということで、長期外泊に進みました。

これから彼女には色々な経験をしてもらいたいと思っています。自動販売機のコーヒーとかお茶とかが並んでいるガラスを触って、開けば飲めると思ったのか、「開けて、開けて。」と言う場面があり、自動販売機でお金を入れてスイッチを押し、品物が出てくるというのも一つの経験。食卓でマヨネーズやお醤油も、「何、何？」と。「お豆腐にかける醤油だよ。」とちょっとかけてあげると「もっとかける。」と、「かけるかける」攻撃です。七味唐辛子を主人がかけている時も「かける、かける。」だったのですが「それは辛いんだよ。」と、「辛い！」という顔を私がすると、今では主人がかけるのを見て「パパ、辛い？パパ、辛い？」なんて言っています。近所に小さい子供がいないので、近所をお散歩していると色々な方に声をかけられ、最初は彼女も戸惑っていたのですが、今では「バイバイ」と言ったり、隣のご夫婦を「おじちゃん、おばちゃん」と言って、仲よくさせていただいています。人との触れ合いも、とても大きな成長の一つになると思うので、大切な宝物にさせてあげたいと思っています。いろいろな人と関わったり、動物園に行ったり新幹線に乗ったりといろいろなことをして、彼女の成長を見守りたいなと思っています。これから長い期間、私たちは生活をともにすると思います。実親さんとの関係や、真実告知、大きくなって思春期になった時に、やはり私たち夫婦にも悩みが出てきたりすると思うので、その時には先輩里親さんや、児童相談所、お世話になった乳児院の職員の方々、地域の方々とみんなで悩みを解決して、みんなで彼女を育てていけたらいいなと思っています。まだまだ私たちも、これからが里親としての成長だと思っていますので、「頑張らず」に、頑張っていこうかなと思っています。

17　里子は宇宙人？？

【里母】

私は里親になって５年目です。研修を受ける中で、先輩里親さんの意見を聞いたとき、「仕事と思ってやったほうがいい。」と聞きました。そのとき私は、そんな気持ちでいいのかなと思いました。

里親になって８か月目の７月に、Ａ子について話がありました。さあ、どんな子だろうなと思い、施設に会いに行き、交流が始まりました。

施設とも今日でお別れという日に、私は新しい靴を持って行きました。施設の子供たちとも今日でお別れ。毎日をともにした友達たちが一人一人「さようなら。元気でね。」とＡ子に言いました。Ａ子は下を向いているだけでした。私は子供たちを見て、涙が止まりませんでした。Ａ子も泣くのを我慢しているのか、ただただ下を向いていました。この子たちは施設で育って、友達と何回お別れをしてきたのかと思うと、私たち大人はもっと子供に責任を持つべきだと思いました。

この子にとって、私たちのところに来ることはいいのか、施設にいたほうがいいのか迷いましたが、やはり家庭のよさを教えるほうがよいと思い、その気持ちを振り切りました。そして、みんなが門を出るまで見送ってくれました。私は持って来た靴をＡ子に「履きかえる？」と聞くと、Ａ子はうれしそうに「かわいいね。」と言い、履きかえました。

そして、いよいよ我が家での生活が本格的に始まります。今、思えば、Ａ子だって知らないおじさん、おばさんのところに来て生活するのだから、色々Ａ子なりに考えたのでしょう。私も、さあ、どんな子だろうと探りを入れながらＡ子のすることを見ていました。まあ、驚かされることなどは多々ありました。初めて義理の姉と主人と４人でモールに行ったときのことです。Ａ子は私と手をつながず、初めて会ったばかりの姉の手をとり、さっさと歩き、私など知らんぷりです。お昼どきもテーブルに座ると、私に「あっちに座って。」と言うのです。「お姉ちゃんがびっくりしているよ。」といさめると黙り込みました。この子は大人には動じない子なんだなと思いました。

逆に幼稚園の子供に対してはたじたじになり、足が前に出ないような子供でした。途中で入園したことも影響したのだと思いますが、大人と接するのは平気なのに子供の輪に入っていけないのは困ったことだなと悩みました。でも、ママ友と私が仲良くなることで、自然にお互いの子供たち同士が仲よく遊ぶようになり、ほっとしました。

やがて１年生になり、勉強が始まりました。学校から帰ってくるとすぐ宿題をやり、テストも100点ばかり。簡単だからみんな１００点とっているのかと思っていましたが、ママ友に「それができない子もいるのよ。」と教えられて、この子は、勉強の心配をしなくてもいいんだなと感じ、しつけを第一の育て方に決めました。

私の教育方針は「１　うそをつかない」、「２　ごまかさない」、「３　約束を守る」、「４　きちんとあいさつをする」という４つに決めました。学校ではよい子なので、個人面談で「よい子ですよ。心配することはないですよ。ただ、休み時間に外で遊ばないのが気になるんですけどね。」と先生に聞かされてびっくり。「いつも外で遊んでいるよ。」と私は聞いていたんです。ああ、うそをついていたんだなとがっかりでした。「うそはつかなくてもいいんだよ。本当のことを言うんだよ。やってしまったことは正直に話せば注意で済むんだよ。」と言っても直りません。そのうそがばれても謝らない。最後の最後までうそをつき通すのです。毎日これが続くと、さすがに私もまいってしまいました。挨拶でも、なぜかなかなか「ごめんなさい。」と言えないのです。「おはよう。」「こんにちは。」は言えるのに、なぜ「ごめんなさい。」だけが言えないのか不思議でした。「施設ではばれなかったことも、家庭に来ると１対１だからすぐばれるんだからね。うそはだめよ。わかった？」と言うと「わかった。」と答え、次の日にはまたうそをつく。この子に「お前は宇宙人か！」と言うと「違う」と言い返し、「いや、絶対宇宙人だ！」ともう一度言ったものです。

しかしそこで、勉強会のときに「家庭に異文化人が来たと思いなさい。」と聞いたことを思い出し、ああなるほど、このことだったのかと納得しました。ストレスがたまり、里親をやめようと思ったこともありますが、最近やっとうそをつかなくなり、また「ごめんなさい。」も言えるようになってきたので、どうにか続けています。

Ａ子が家に来て４年になりますが、お互いがかみ合ってくるのには３年ぐらいかかります。その間、やはり一番頼りになるのは先輩里親さんです。これから里子が来る方、来たばかりの里親さんたちもサロンに出たり、里親さんたちに話を聞いてもらったりして、気持ちをすっきりしてきたらいいと思います。

この子は幸い勉強はできるようなので、将来は看護婦がいいねと決め、３人で目標に向かって頑張っています。この先、何が起こるかわかりません。そのときそのときで対応していくしかないかなと思っています。英会話にも通い、昨年子供の英検で５級に合格しました。私はＡ子が１８歳を過ぎ、この家から旅立って１人で生きていけるよう育てていきます。「厳しいときもあると思うかもしれないけれど、それはＡ子のためよ。」と私はＡ子に教えております。

一番初めに書いた「仕事としてやりなさい。」という意味が、自分が体験してわかりました。でないとやっていけません。これからも気持ちの中で「仕事」と言い聞かせ、頑張らないで、なるようになるさと思えたらいいなと。私の性格をもう少しのほほんとした性格になりたいなと。でも、できない性格なのです。それでも、この厳しい私に、Ａ子は「好きだよ。」と言ってくれています。ありがとう。

【里父】
里父としてのエピソードをお話ししたいと思います。

うちの子は今、小学校３年生ですけれども、５歳で来て初めて、海でも遊びに行こうかということで磯遊びに行ったことがありました。そばの海産物のお土産店で「味噌汁に入れるとおいしいカジメ」があって、それを飲んでみようと思って飲むと、その子が非常に「おいしい」と言っていたんですね。

そんなことも忘れていて、ある日Ａ子とお風呂に入って、しりとりでもしようかということで始まりました。パンダ、ダンス、スイカ、カメ、メダカ…で、「ええ、また『カ』？カ、カ、カジメ汁」と言ったのです。私はもうそのときに、一瞬止まって大笑いですね。この子にとってカジメ汁という言葉が非常に印象的で、それほど強かったんだなと思って、日本の幼稚園児で、しりとりの答えにカジメ汁という答えを出す幼稚園児はうちの子ぐらいではないかと思ったものでした。

また、我々はどうしても、食卓にお酒のつまみが並ぶところがあって、その後のしりとりでもなかなか面白いのです。家内が宇宙人と言っていたぐらいですから、答えもなかなか面白いんですね。モモというと「モズク」です。スイカは新しいバージョンで「辛子明太子」。かかしと言うと「塩辛」とか。なかなか面白いですね。

ちょっと失敗したなということもありました。里母と里父の間で、子供の養育の方向性とか、役割分担みたいなものは一度よく話し合われたほうがいいと思います。基本的には、主たる養育者はどうしても里母になるんですけれども、恐らく日本の里母は皆さん非常に厳しい感じだと思うんです。片や里父はやや甘い。どちらの方向性とか指示を聞けばいいのか、だんだん子供も戸惑う気がしますね。その辺は成長すれば、逆にうまく親を使い分けていくんだと思うのですけれども、小さいころは夫婦の意見は合わせておいたほうがいいと思います。

勉強なんかできなくても素直に育ってくれればいい、という表現をよく使いますけれども、里母にすると、なかなかそうもいかないようですね。ゆったりとした気持ちというのを持とうと思うんだけれども、どうしてもストレスがたまってくる。そういうストレスについては、レスパイトケアという制度を利用して、里親サイドのストレスを早目に解消したほうがいいと思います。そして、そういう期間には夫婦で温泉旅行にでも行って、少し話し合いの場を持つ。里母を休める時間が必要ではないかと思っています。とにかく早目に解消したほうがいいですね。

私からすれば、Ａ子は非常に素直に育っていると思っています。里親のストレスはサロンやいろいろなことを通して解消して、子供と接するときには、それはなるべく出さないようにしたほうがいいかと思っています。

18　困難を乗り越えて

【里父】発表の流れですが、最初に妻の方から、里親になったきっかけというイントロ部分を話します。その次に元里子のＡ君が、高３の９月から翌年４月下旬までの我が家での事を話します。実は、Ａ君は去年もこの発表会で体験発表をしています。そうしたところ、とてもすばらしい家庭で、すばらしい坊やがいて、何も問題なく、里親とはこんなに楽なのか、という印象をお持ちになった方がたくさんあるとお聞きしました。今年はそうでない部分も含めて再度発表しようということになりました。

【里母】ちょうど５年前、平成１９年の里親月間のときに、里親体験発表会のチラシをいただきました。そのときには、里親の内容はほとんど知りませんでした。私は、たまたまその発表会のときに予定が空いていたので、夫に「私、聞きに行ってくるからね。」と言って家を出ました。そのときに説明した東京都の方より、「家庭で育ててもらえない子供のうちの１割しか里親の家に入れていない。東京には要保護児童が４，０００人ほどいるので、３，６００人ほどが里子にはなれないでいる。ここに聞きに来てくださっている方みんなが里親になってくれたらどんなにすばらしいか。」というお話がありました。

私は、男の子を３人育てました。話を聞いてこれは自分にぴったりではないかしらと思い、家に帰って「ねえねえ、私、里親をやろうと思うのだけれども。」と夫に話したら、夫はすぐ「いいよ。」と言ってくれました。また、三男は大学３年で、ちょうど卒論で里親をテーマに選んでいた４年の先輩がいました。里親については、私より三男のほうがよく知っていて、乗り気になってくれました。長男と次男は、お母さんがやりたいのだったらやればと言いました。里親になるには家族の同意が必要なのですが、そこはすんなりとクリアしました。すぐに、私と夫と三男とで児童相談所に行きました。そうしたら児童相談所の方から「里親になりたいときに夫婦で相談に来る家はあるけれども、子供まで来た家はＢさんの家が初めてだ。」と言われました。

子供を預かるにあたっては、乳幼児の頃から自分の思うような子供に育てたいという思いがありました。でも、私は若くないので、里子が大きくなったときに、お母さんが年寄りではかわいそうかなと思い、年齢の大きな子を希望対象にしました。また、男の子、女の子というのも、希望が出せます。私は息子を３人育てていましたので、男の子を希望しました。

翌年、３月に認定書が届いた後に、私の母が鬱病になってしまいました。すぐに一時保護委託の依頼がありましたが、全く引き受けられる状態ではなくなり、１回目はお断りしています。里親になったらどんな場合でも受けなければならないということはありませんので、自分の都合が悪ければ断ることもできます。

その後９月になってＡ君の依頼がありました。里親委託には、一時保護委託と長期

委託があり、Ａの場合には一時保護委託という期間の短いものでした。高３の９月に来ました。それからの状況は、このあと本人から説明があると思います。その後、１０月に中１男児の長期委託の話がありました。その子は今高２になっています。それから、２年前、フィリピンでストリートチルドレンになって、国籍が日本だということで日本に強制送還されてきた１８歳直前の男児を、一時保護委託で２週間ちょっとお預かりしました。その子も入れて、３人の里子との出会いがありました。

里親は大変なことも多いけれども､やりがいもありますし､結果が今は出なくても、絶対に後でじわっと効果が出てくるのではないかなと思います。今、高２の里子の保護者として、一般の高校生の親にまじって保護者会に出て、若さやエネルギーをもらったり、落ち込んだとき、やはり私も頑張らなくちゃと、教えられることが本当にたくさんあります。我が家は子供が一番多いとき、８人家族でしたが、今は私と夫と三男と高２の里子の４人家族で、半分に減ってしまって、すごく寂しいなと思っている今日この頃です。

【元里子】前回は“みんなに里親さんをやってもらいたい”ということで体験発表を頼まれたので、いい面ばかり伝えたのですけれども、今回は“本当に素直に思ったままを伝えてほしい”と言われたので、敢えて伝えます。よろしくお願いします。

里親のＢさん夫妻にお世話になったのは、もう４年前、高３の９月からでした。そのときの僕の心情は、受験のことしか頭にありませんでした。Ｂさんの家に来る前に違う里親さんのところに１週間ほどいて、移動することになりました。自分の居場所が定まらないまま移動し続けるのかな、と不安に思っていました。児童福祉司に連れられてＢさん夫妻に出会った第一印象は、正直、ちょっと怖かったです。Ｂさんの家の食事は、みんなで一緒に準備して、一緒に食事をとり、会話することでした。食事をするときはテレビも消すというのは厳格だなと思っていました。会話では基本的に僕以外は、しゃべりたがりというのは失礼ですが、発言力の強い方しかいなかったので、気おされっぱなしでした。それでも、にぎやかで楽しかったし、そういった会話の中で、Ｂさんたちがどういう人たちなのか、わかってきました。

そうして１か月がたったころ、もう一人、中学１年生の里子がやってきました。最初、彼のことはロやかましく、面倒だなと思っていました。それでも、一緒に暮らしていく以上、こちらも気を使わなければならないと思いながら過ごしました。みんなで池上本門寺の祭りに行ったり、馬頭琴のコンサートに連れて行ってもらったり、正月に向けて百人一首をしたり、イベントが多くありました。中でも、毎年正月に親戚たちがＢさんの家に集うのはすごくいいなと思っていました。

そんな中、僕は自分の勉強が自分の中でうまくいかなくなって、家でも何となく疎外感や劣等感などにさいなまれるようになり、ある時、死にたくなりました。正月に

もらったお年玉を握りしめて、とりあえず遠いところへ行って海が見たいと思いました。ネット喫茶で新潟までの行き方を調べてから、大宮から新幹線に乗り、新潟に着いたのは夜でした。すごく寒く、とりあえず適当に真っすぐ歩きました。真っすぐ歩きながら、これまでの人生にあったことを思い出しました。友達と毎日のように遊んでいた思い出ばかりがよみがえりました。なかなか海に着かず、駅まで戻り、明るくなってから海を探そうと思って、電話ボックスの中で待ちました。明るくなると、薬局を探して睡眠薬を買いました。そして、海に向かいました。このまま、この睡眠薬を飲んで海に飛び込めば誰にも迷惑をかけずに死ねるなと思いました。だけれども、いざやろうとすると動けませんでした。突然、自分にはまだやっていないことが色々あるのではないか、死ぬのはそれをしてからでも遅くないのではないかという思いにかられました。そうした思いの対立がしばらくあって、死ぬのが怖くなり、諦めました。駅に戻った後、ふらっと本屋に立ち寄り、秋葉原の無差別殺人事件に関する本を見つけました。その当時の僕は「こんなのになりたくない。」と強く思い、帰ろうと決意しました。

大宮に戻った後、Ｂさんの家に電話しました。「今、大宮にいます。すみません、戻ります。」とだけ言って切りました。でも、すぐには戻りませんでした。東京に戻って、昼間は図書館やネット喫茶で寝て、夜は歩き回り、なかなか帰りたくありませんでした。それでもお金がなくなってきたので、帰らざるを得なくなって、帰りました。Ｂさんは怒ることもなく、優しく迎えてくれました。すごく迷惑をかけたと思い、反省しました。そして、このままＢさんのところに居続けるためには、また学校へ通うことが必要になりました。

毎朝、自分のために弁当をつくってくれたり、学校へ行くとき、寒い中、外まで出てきてくれ、送り出してもらえたりしたことがうれしかった。久しぶりに学校に行って、友達と会えたこともうれしかったです。

１８歳になって、学校に来年また通ってＢさんの家にいるか、自立援助ホームで働きながら勉強するかの選択を迫られ、Ｂさんに「甘えるな、ちゃんと考えなさい。」と言われました。それで、自分で将来的にどちらがいいかを考え、自立援助ホームで働きながら勉強することを決めました。最後の別れの日になって、Ｂさんが僕の別れのために泣いてくれて、寂しかったけれども、うれしかったです。

今も正月の集まりに誘ってもらったり、この間も仙台まで観光に誘ってもらったりしました。いまだに色々してもらってばかりですが、少しずつ返していきたいと思っています。

19　子供たちに教えられて

【里母】私は、今縁組している子供たちが３年生、４年生、６年生のときに里親を始めました。委託当時、私にとって子育てはもう十分でしたから、預かる気はありませんと断りましたが、「もう少し広い心を持って、３人でも４人でも同じではないですか。」と言われてしまいました。犬の子ではないですからそういうわけにはいきませんと断ったのですが、何とかしてくださいと言われました。

預かるつもりもなかったのですが、その子の名前は「メグミ」とついていました。３人の子供たちは愛、信、望という名前でしたので、「メグミ」と聞いて、聖書にある信仰、希望、愛、を連想して、「メグミ」ならご縁かなと思って引き受けました。そんなわけで、３歳のその子を預かりました。こんなに楽しい親子関係があるのかと思うくらい、孫のような感覚でした。子育てに失望していた私は、その子を預かったことによって、可愛くて、可愛くて、私よりも多分主人のほうがもっと可愛かったと思うのですけれども、楽しい子育てが始まりました。またほかの３人も非常に可愛がってくれましたので、幸せだったなと思っています。その子は意外とすんなりと育ってくれたのですが、最初だけちょっと難しかったです。男性を見ると泣いたり、ぎゃあぎゃあ言ってたまらなくなりましたので、主人にもう返そうかと言ったことがありました。しかし主人は「時が解決してくれるから、半年は様子を見よう。」と言いました。２～３か月ですっかり馴れました。その子は、高校を卒業しまして専門学校に行き、現在結婚してファミリーホームの補助をしてくれています。

その子が２０歳を過ぎた時、３人目の子供で思春期の大変な苦労をした経験があったので、思春期が難しいお子様を、もしかしたら下宿のようにお預かりすることができるのではないかと思いまして、1人ぐらいお預かりしようと主人と話し合いました。そして、小学２年生の女の子を授かりました。その子は今、高校１年生になっております。非常にその子もやりやすい子供さんで、私たちは本当に幸せだなと思っています。「お母さんたち、もう年だけど面倒見てあげるね。」何て、嘘か本当かは知りませんけれども、言ってくれています。そんなわけでその子が来てから一時預かりとか、そのほかたくさんのお子さんをだんだんお預かりすることになりました。

【里父】私が今日話をしようと思っているのは、5年ほど前に受託した子のことです。その子が来るときに私は最初、反対しました。簡単なことではないのではないと思っていたからです。しかし、家内はその気になっていたので、受託を決意しました。ところが、その子は女番長だということがわかりました。来たときには「親に捨てられたのだから、命など惜しくない。いつでも死ねる。」と言っていたような子なのです。もう根性と言ったら他の子供の比ではありません。そういう子なので、本当に大変だったのですが、それが最近、だんだん普通の子になってきてしまって、今は大学に行

きたいなんて言っているのです。この子を通して本当にいろいろ教えられました。

【里母】本当にすごいなと思います。だめもとでいいならお預かりするかなと思ったのですが、主人が言っているように本当に大変でした。たばこ、お酒、何でもあり。中学の時、学校にやっと行ってくれたと２人でほっとしていますと、突然帰ってきて、「お母さん。もう学校なんか行きたくないから制服捨てちゃった。」と言うのです。そのときその子のほかに小学生の里子が２人いたので、その子供たちに「もうお母さん面倒を見られないし、あなたたち見ていても大変でしょう。だからもうお返ししようと思うんだけど。」と言いました。本当にそう思ったのです。そうしたら、そのとき４年生だった女の子に、「お母さん、あの子なりに頑張っているんじゃないの。」と言われてしまって。何を頑張っているのかと私は本当に思ったのですが、彼女はそういう見方をしていたのです。１つ下の３年生の男の子にも「もう返そうと思うんだけど、どう思う。」と聞いたら、「僕には優しいよ。」と言われて。２人にそう言われて、私は返しますと言えませんでした。

しかし、相変わらず夜は帰ってこない。部屋に友達を呼ぶ。友達たちに帰りなさいと言えなくて、恐る恐るお部屋に入れていいよと言うのですが「お願いだから日づけが変わったら帰ってね。」と言ったのです。「ちゃんと１２時には帰るから。」と言われて、そのときは１２時に帰りました。

あるとき、この子が外出したっきり帰ってこないことがありました。３日経ったときに、これだけ帰ってこなければ、児童相談所にお返しする理由になるだろうから、お返ししようと思ったのです。そうしたらそのとき、３番目の養子の不良息子が、２８歳くらいでの時でしたが、その子を返すなと言うのです。そういう息子がいることですごく心配したのですけれども、今になってみると、似た境遇のその息子がいたことで、彼女は居心地がよかったみたいです。私が電話しても出ないときも、息子が電話をしたら出るのです。そして息子が夜中の２時、３時にその子を連れて帰ってくるのです。私はそのとき「なぜ連れて帰ったの？」と聞いたら、息子が「俺も帰りそびれて、すごい寂しかったときがあった。」と言うのです。「この子を、今、離したら、行くところがないんだ。何とかしてほしい。」という気持ちが強かったらしくて、あんな大変な息子に私はお説教されてしまったわけです。

そして、中学から高校に行くときにも本当に大変でした。けれどもその子が我が家に来て５年たった今、私は本当に里親をやって、こんなにうれしいことはないという気持ちを報告したいなと思ってここにいます。今まで関係した子どもが１３～１４人いるのです。その子たちに「戻る家がある。」「家族がある。」「ここにいていいんだ。」この３つがあれば大丈夫なんだという確信を、３０年近くやってやっとわかりました。

今、この子は高校４年なのですけれども、大学に行きたいと言い出しました。大学へ行くための奨学金応募の作文を書いたのですが、学校の評価が本当になかったので、受かるわけがないと思っていました。ところが、許可の可否の結果を聞いて帰ってきた時に言ったことには、「お母さん、私、お母さんをだまそうと思って、落ちたって言いたかったんだけれども、どうしても笑ってしまうんだ。」と。受かったことがそれほど嬉しかったみたいです。その子の中には何かあるなといつも思っていたのですが、私もまさかと思っていたのでびっくり、すごく泣いてしまいました。

合格発表を見に行くときも車で行きました。そうして、どこまで本当かわからないのですが、作文に「本当の親でも親戚でもない人が、私だけのためにここまでしてくれるなんて、という思いです。私と里親との思い出はこの合格発表の日だけではなく、出会ってから今までの全てだと思います。関係がなく、血がつながっていない私のためにそこまで泣いてくれたことに自分はすごく感動し、家族を感じた。」と書いてありました。

そんなわけで今は小学生を３人と中学生１人、高校生２人のあわせて６人を育て、ファミリーホームをしています。学校の保護者会に補助者の長女が行ってくれますが、彼女は今３０代ですから、みんなにその子のお母さんと言われるみたいです。「いや、お姉さんです。」と言っているようです。

まとめとして、私が一番子育てで気をつけていることは、後で主人も言うかもしれませんが、比較をしないということです。また全否定しないで、悪い行為は叱り、存在は受け入れるよう努力をしています。そして、やはり子供には尊敬されたいと思いますが、それを教えるには子供を尊敬する事も、また主人から言われました。

【里父】妻から感動的な話を聞きました。「やっぱり子育ては夫婦二人でやるんだからね。お母さんばかりだったらだめなんだ。」と言われたときには、私はすごく困ってしまいました。しかし子供たちと出かけたり、土曜日には自転車でサイクリングに行ったりと、子供に関わることにより、子供たちから教わることが色々あります。大変な中にも楽しい毎日を過ごしています。養子の子供たちは、「お母さんとお父さんはもう年だから、育てられなくなったら私たちがお世話して、里子の面倒を見てあげる。」と言っております。もう７５歳になった私なのですが、フィットネスに通ってもう少し頑張りたいなと思っております。

20　自分の人生をもう一度生きられるようで楽しい

【里父】昨年夏に会った小学２年生の女の子についてお話しします。とても人懐こくて笑顔が可愛く、ぜひお預りしたいと思いました。私のことを「おじいだと思った。」と言います。これからの生活が長く続くのか不安があるのだと思います。年齢が想像つかないように健康で若くいたいと、本当に思っています。

【里母】「施設にいるとそんなに勉強しなくていい、だけどどこかの家庭に入ると勉強させられると思った。」と言っていましたので、予想どおり勉強してもらおうと思っています。私にも年齢や体形のことで嫌な言葉を連発してきます。最初は怯んでしまい切り返すことができませんでしたが、だんだん負けずに応戦しています。言われたら嫌な思いをするということを分からせるようにしています。最近は注意をすると「ごめんなさい。」と言うようになってきました。

【里母】食事の好き嫌いが本当に激しいです。「これ嫌い」と言い放って食べません。いろいろ工夫して促しても結構頑固です。そんな中で都庁の展望台で食べたカルボナーラは、数少ない食べられるものの１つです。その時はアイスティーにシロップを１０個も入れておいしそうに飲んでいました。

【里父】小学校は昨年９月に転入しましたが、先生方から声をかけてもらい、本当によくしていただきました。遅刻や忘れ物、片づけや準備が遅いなど目に余ることばっかりだった筈ですが、１年生のうちは言うべきことの１０分の１くらいにとどめてくださった感じでした。でも朝が何より大変です。

【里母】寝たままの本人を抱きかかえてテレビの前まで連れていきます。テレビの音で少し目が覚めるのでこれで無理やり起こして朝食、身支度、そして登校ですが不機嫌です。間に合いそうにないので毎朝送って行きました。

【里父】早寝早起きの約束をするのですが、なかなか寝ません。寝たふりも得意です。とても大変でしたが、最近は遅刻してはいけないと少し急いだり走ったりもします。随分成長してきたなと、とても嬉しくなります。学校で前期皆勤賞をもらって、後期ももらうのだと張り切っています。放課後は放課後クラブに預け、１年生のうちは夕方７時までお願いしました。私は通勤時間が１時間半ですが、職場の理解が得られ、７時前に迎えに行くことができました。

【里母】私は薬剤師で自宅近くで薬局を経営しております。２年生の今は、５時に放課後クラブから独りで薬局に帰ってきます。大体６時頃までテレビを見ながらおやつを食べて、その後に宿題をします。

【里父】母が薬局で接客していますと、本人がのれん越しに聞いています。本人は、最初は接客中に出てきてお客さんと話したりすることもありました。

【里母】私は接客中お客さんの話を聞きながらも、奥にいる本人の様子が気になりな

かなか大変でした。お客さんの話を親身になって聞いている様子を本人はどう思うのか、引き裂かれる思いがして後ろめたさを感じたりしました。でも最近は商売上の接し方が少し分かってきた様子で、お客さんの方から本人に声をかけてくださる方もいて、気分的に楽になってきました。また先日校外学習で、本人を入れて合計７人が私の薬局に来てくれました。本人も含めて子供たちからお礼の手紙をもらって、とてもうれしかったです。商店街や学区の祭りでは、以前から振り込め詐欺などに注意を呼びかける防犯チラシを配る活動をしています。今年はブースで、本人が折り紙遊びでお客さんをたくさん呼び込みました。小さいお子さんには折り方を教えていました。放課後クラブで習った折り紙が得意で、オリジナルでカメを作ったり、図書館で折り紙の本を借りてきてレパートリーを増やしたりしています。

１年生の頃、宿題をさせるのに一番大変だったことは、何かほかのことに目がいって全く集中できないことでした。生活環境が変わったわけですから周囲に注意が向くのは仕方がないのですが、その注意は小さなことに次々と向くので、いつになっても落ち着きません。これは学校で時間内に準備や片づけができないことや給食時間内に食べ終えられないなど、本人を理解する上で根本的なことだったと思います。１年生のうちは、まあ仕方がないと思っていましたが、時々本気で怒ったふりをします。怒ると数日は気をつけますが、またもとに戻ります。この繰り返しです。前は怒ったら離れていくかなという心配もあってなかなか怒れなかったのですが、本人のために必要だということで私の方が自信を持って怒れるようになり、少し楽になったように思います。注意力散漫を何とかコントロールできるようにとやってきましたが、今は少し良くなってきたと思います。生活のペースに慣れて、安心感が出てきたのだろうと思っています。

【里父】交友関係については、放課後クラブで一緒だった同級生の女の子と親しくなり、今年の夏は誘われて３泊４日のサマーキャンプに参加しました。普段から朝一人では起きられませんからすごく心配でしたが、「楽しかった。」と帰ってきました。

【里母】最近は向かいのお店の４年生の女の子と仲良くなって、通りで一緒に遊んでいます。自転車に乗ること、プールで泳ぐこと、通信教育、塾、英会話教室、どれもほかの友達がやっているのを見て、自分もやりたいとか、やりたくないとか言います。友達関係は大事だと思っています。

【里父】１年生の頃は、将来について本人がどう考えているのかとても気になっていました。かといって聞くわけにもいかず待っていますと「お父さん、お母さんが死んじゃったら一人ぼっちになっちゃうから、そうしたら私も死んじゃおうかな。」と言っていました。その言葉を聞いてびっくりし、別れてきた家族とのつながりのこともありますから、何と答えていいか考えさせられました。家の中では私たちに暴言を吐

いたり言うことを聞かなかったり、時には本気でぶってきたりしても、悪いことだということは分かっているようです。うちと外の使い分けができてくればそれは成長で、わがままが言えるところ、言う相手ができたということはいいことだなと思っています。また、本人の間違っていることを指摘すると、大泣きしたことがありました。口で言い返せないので、私たちへの反発を精一杯表したのだと思います。それが最近は大泣きが減ってきて、嫌だとか、やらないとか、真っ向から反抗して、「なぜ嫌なの？なぜやらないの？」と聞くと「やりたくないから、嫌だから。」と居直ります。そして、だんだん屁理屈を言うようになっています。

【里母】里親研修で講師の先生が、しっかり目標を持って生きていくことが大事だとおっしゃっていました。本人は小さいながら家族と別れて暮らすという辛い経験をしているので、それを癒し、「希望を持って生きるため、もっと幸せになるように頑張っていこう。私たちがしっかり応援するからね。」と言い続けていこうと思っています。お預かりする時に「苦労しがいのある子ですから。」と言われました。確かに苦労もありますが、本人の成長を見ていますと自信が出てきました。これからも頑張っていこうと思っております。

【里父】最後になりましたが、この子を迎えて本当は随分心配しました。一番大きかったのは、もし時期が来て本人がもとの家族のところに戻ることになった時、喪失感で果たしてこちらが自分を保てるだろうかということです。でも私は切り替えまして、先のことは考えないようにして、一日一日を楽しもうと思っています。

【里母】本人がやって来てすぐのことですが、「もとの家に帰るつもりだから。」と宣言しておりました。そう言うのを否定するわけにもいかず、黙って聞いてきましたが、だんだん本人と一緒にいる時間が長くなってきますと、本人の気持ちが分かるようになってきました。研修会の講師の先生も言われましたが、今までの家族とのつながりをしっかり保っていかないと、本人が自分に自信を持てなくなってしまうのだそうです。自分が過ごしてきた時間を大事にすることで、自分を肯定できるようになるのだと理解できます。子育てをしながら、自分が小さかった頃母にしてもらったことをよく思い出します。まるで自分の人生をもう一度生きられるようで楽しいです。私たちと過ごしている時間が本人にとっても、いつか楽しく思い返すことができる時間になるようにと願っています。

平成 24 年度　養育家庭体験発表会　参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童相談所	参加人数				
				養育家庭・フレンドホーム	区市町村職員	民生・児童委員	一般・その他	合計
10 月　5 日	町田市民フォーラム　ホール	町田市	八王子	9	26	24	110	169
10 月 12 日	西東京市住吉会館ルピナス 2 階研修室	西東京市	小平	5	0	11	11	27
10 月 16 日	男女共同参画センターらぷらす研修室	世田谷区	世田谷	1	5	19	24	49
10 月 18 日	清瀬市児童センター（ころぽっくる）2 階会議室	清瀬市	小平	2	2	3	14	21
10 月 18 日	日野市役所　505 会議室	日野市	八王子	5	11	7	29	52
10 月 23 日	武蔵村山市役所中部地区会館　401　大集会室	武蔵村山市	小平	2	3	1	1	7
10 月 27 日	あんさんぶる荻窪	杉並区	杉並	7	4	0	30	41
10 月 27 日	狛江市中央公民館 2 階第4会議室	狛江市	世田谷	2	0	1	20	23
10 月 28 日	荒川区町屋ふれあい館	荒川区	北	3	0	20	2	25
10 月 28 日	中央区教育センター視聴覚ホール	中央区	センター	2	5	3	15	25
10 月 29 日	三鷹産業プラザ	三鷹市	杉並	3	5	5	28	41
10 月 30 日	昭島市役所 6 階602会議室	昭島市	立川	3	6	1	11	21
10 月 31 日	小平市中央公民館	小平市	小平	6	12	1	7	26
11 月　1 日	葛飾区子ども総合センター小ホール	葛飾区	足立	7	14	15	16	52
11 月　1 日	豊島区民センター音楽室	豊島区	センター	6	12	38	27	83
11 月　2 日	練馬区役所　地下 1 階多目的ホール	練馬区	センター	0	25	9	24	58
11 月　6 日	新宿区子ども総合センター 3 階研修室	新宿区	センター	0	25	28	9	62
11 月　6 日	福生市子ども家庭支援センター	福生市	立川	6	8	5	12	31
11 月　7 日	あきる野市役所5階503会議室	あきる野市	立川	5	18	19	18	60
11 月　7 日	稲城市地域振興プラザ 4 階	稲城市	多摩	0	6	7	28	41
11 月　8 日	武蔵野プレイス	武蔵野市	杉並	4	5	4	24	37
11 月　8 日	調布市文化会館「たづくり」	調布市	多摩	1	4	12	20	37
11 月　9 日	台東区役所 10 階 1003 会議室	台東区	センター	0	22	16	39	77
11 月 10 日	目黒区総合庁舎1階E会議室	目黒区	品川	0	11	6	13	30
11 月 10 日	江東区南砂子ども家庭支援センター	江東区	墨田	1	0	0	14	15
11 月 10 日	多摩市パルテノン多摩	多摩市	多摩	1	5	4	39	49
11 月 12 日	小金井市役所第二庁舎8階 802 会議室	小金井市	小平	1	0	0	9	10
11 月 12 日	女性総合センター・アイム5階第3学習室	立川市	立川	5	6	4	23	38
11 月 13 日	東久留米市役所 1 階市民プラザ	東久留米市	小平	5	3	2	8	18
11 月 13 日	青梅市役所2階会議室	青梅市	立川	3	8	8	17	36
11 月 15 日	羽村市生涯学習センター　ゆとろぎ 2 階講座室	羽村市	立川	4	7	15	9	35
11 月 15 日	生涯学習センター　クリエイトホール	八王子市	八王子	8	21	5	75	109
11 月 16 日	東大和市役所 2 階会議室	東大和市	小平	4	0	1	7	12
11 月 16 日	すみだリバーサイドホール	墨田区	墨田	2	16	0	3	21
11 月 16 日	瑞穂町子ども家庭支援センターひばり	瑞穂町	立川	2	5	6	12	25
11 月 17 日	池上会館第二会議室	大田区	品川	2	5	16	18	41
11 月 17 日	荏原文化センターレクリエーションホール	品川区	品川	1	6	30	13	50
11 月 19 日	国立市役所3階第1会議室	国立市	立川	2	5	3	19	29
11 月 20 日	千代田区神田さくら館7F 会議室	千代田区	センター	4	10	3	11	28
11 月 20 日	奥多摩町子ども家庭支援センター「きこりん」	奥多摩町	立川	1	7	4	14	26
11 月 20 日	府中市子供家庭支援センター「たっち」	府中市	多摩	0	1	11	22	34
11 月 22 日	東村山市役所市民センター	東村山市	小平	1	0	6	11	18
11 月 23 日	文京区シビックセンター4階シルバーホール	文京区	センター	0	2	7	34	43
11 月 27 日	渋谷区役所神南分庁舎	渋谷区	センター	3	7	2	16	28
11 月 28 日	中野区役所特別集会室	中野区	杉並	4	3	0	35	42
12 月　1 日	足立区こども家庭支援センター別館2階地域活動室1	足立区	足立	6	15	9	14	44
12 月　1 日	北区赤羽文化センター	北区	北	0	2	3	33	38
12 月　1 日	国分寺 L ホール	国分寺市	小平	9	1	0	16	26
12 月　5 日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北	0	22	0	13	35
12 月　9 日	みなと保健所8F 大会議室	港区	センター	3	10	8	69	90
12 月 10 日	江戸川区総合文化センター 2 階会議室	江戸川区	墨田	2	19	40	20	81
2 月 20 日	多摩市子育て総合センター	多摩市	多摩	0	2	0	19	21
合　　計				153	417	442	1,125	2,137

平成 24 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/5 町田市	10/12 西東京市	10/16 世田谷区	10/18 清瀬市	10/18 日野市	10/23 武蔵村山市	10/27 杉並区	10/27 狛江市	10/28 荒川区	10/28 中央区	10/29 三鷹市	10/30 昭島市	10/31 小平市	11/1 葛飾区	11/1 豊島区	11/2 練馬区	11/6 新宿区	11/6 福生市
年齢 ～ 20 代	53	1	6	1	8	0	5	12	2	6	5	0	4	2	7	8	6	1
30 代	4	3	2	4	4	1	2	0	0	1	4	1	1	2	1	7	0	1
40 代	8	2	7	4	2	0	12	3	4	2	5	3	2	10	2	5	8	3
50 代	11	5	10	4	9	1	6	3	3	4	5	3	5	7	10	8	8	3
60 代～	14	9	16	4	7	3	0	3	11	5	10	2	2	13	31	7	25	6
不明・無回答	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
性別 男性	20	3	5	1	6	1	10	4	4	2	2	3	3	2	4	3	10	0
女性	70	15	36	18	24	4	15	16	15	16	27	6	11	30	46	32	32	13
不明・無回答	2	3	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	1
所属 養育家庭	5	1	1	2	2	1	3	2	1	4	1	2	1	3	4	0	0	3
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
都職員	1	0	0	0	2	0	1	1	2	1	1	1	0	2	0	0	2	2
区市町村職員	8	0	7	1	2	2	3	0	13	0	4	1	4	0	3	4	10	1
民生児童委員	13	10	17	3	1	1	0	1	1	0	4	0	0	11	34	3	19	4
主任児童委員	5	1	0	0	5	0	0	0	0	1	1	1	1	2	0	3	5	1
学生	47	0	5	0	7	0	2	11	1	4	3	0	0	2	6	10	5	0
一般	5	8	10	9	4	1	13	4	1	5	10	2	4	11	3	10	1	1
その他	7	1	2	4	5	0	3	1	1	1	5	2	4	2	1	5	3	2
不明・無回答	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）																		
区報・市報・ホームページ	28	12	15	5	11	0	10	6	9	7	20	4	6	15	20	16	20	7
ポスターで	3	2	10	1	3	1	3	0	4	3	2	0	4	3	5	2	0	2
児相・子ども家庭支援センター	7	5	8	6	14	1	2	6	9	4	5	3	1	13	21	6	18	7
児童福祉施設	9	3	6	2	1	0	2	3	1	0	1	3	2	4	9	2	3	1
インターネットで	5	1	1	0	0	0	3	2	2	1	1	0	0	2	0	2	2	1
テレビ番組	7	4	9	2	2	0	0	1	3	0	0	0	0	2	3	1	6	0
テレビ CM	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0
ラジオ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	4	4	5	2	1	0	1	2	2	2	0	0	1	2	5	3	6	0
知人・友人	5	5	6	2	3	0	0	2	1	0	1	0	1	5	6	1	2	1
図書	2	1	6	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
公開講座	18	0	9	0	4	0	0	10	0	5	2	0	1	1	7	7	1	0
その他	18	5	7	5	5	1	2	2	7	0	1	2	2	5	4	2	9	2
不明・無回答	5	0	0	0	7	2	0	1	0	0	0	0	0	3	0	2	5	0
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	12	5	7	4	5	1	3	3	3	4	14	2	6	6	15	17	7	5
都報で	2	1	0	1	0	0	4	0	1	1	1	0	1	4	3	3	3	0
ポスターで	4	0	8	0	2	1	1	3	1	2	1	0	2	3	1	0	0	0
チラシで	21	5	12	4	15	4	5	8	3	5	4	2	5	6	15	5	11	6
インターネットで	1	3	2	0	0	0	2	0	1	1	3	0	0	1	2	2	2	0
知人に勧められて	7	2	5	4	3	0	0	3	4	1	0	0	1	6	1	0	1	1
過去に参加	9	7	12	2	8	1	0	3	3	4	0	4	2	4	11	3	6	3
問い合わせた	3	1	2	0	1	0	4	1	0	0	0	1	0	2	1	2	4	0
その他	42	9	11	6	5	0	4	4	10	4	2	4	3	8	6	10	14	5
不明・無回答	5	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0	4	0
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	2	2	5	1	2	0	8	1	0	2	4	1	0	3	1	1	0	1
養育家庭制度に興味・関心があったから	18	14	15	11	14	2	11	10	6	8	13	3	9	18	21	10	19	5
子育てに関わる話が聞けると思ったから	20	9	7	8	11	1	2	2	7	2	3	4	3	13	21	10	14	3
仕事や学問などの参考にするため	51	7	14	3	15	1	4	10	7	7	10	4	0	4	13	13	19	5
その他	13	2	8	1	1	1	2	0	4	2	0	1	4	4	5	4	5	2
不明・無回答	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	2	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	45	13	18	17	14	5	16	17	10	16	25	8	11	23	35	26	31	7
良かった	34	6	15	2	12	0	8	4	9	2	4	1	2	11	16	9	14	5
普通	7	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
あまり良くなかった	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	6	2	8	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
感想数	57	11	33	13	19	2	10	16	11	7	17	4	8	22	30	21	27	6
アンケート回答	92	21	43	19	30	5	25	21	20	18	29	9	14	34	51	35	47	14
参加者総数	169	27	49	21	52	7	41	23	25	25	41	21	26	52	83	58	62	31

平成 24 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/7 あきる野市	11/7 稲城市	11/8 武蔵野市	11/8 調布市	11/9 台東区	11/10 目黒区	11/10 江東区	11/10 多摩市	11/12 小金井市	11/12 立川市	11/13 東久留米市	11/13 青梅市	11/15 羽村市	11/15 八王子市	11/16 東大和市	11/16 墨田区	11/16 瑞穂町	11/17 大田区
年齢 ～ 20 代	2	3	4	7	6	2	1	1	4	2	2	2	0	22	0	2	0	1
30 代	3	2	4	2	10	0	2	2	0	2	2	0	0	21	0	0	1	1
40 代	10	6	6	19	8	9	10	12	3	4	1	2	2	5	3	6	1	8
50 代	6	7	5	5	11	3	0	7	0	4	1	7	5	9	1	4	2	6
60 代～	16	11	3	5	27	3	2	6	0	7	4	5	14	6	4	7	6	18
不明・無回答	1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	1	0	2	0	0	0	1
性別 男性	10	13	3	6	7	6	5	6	2	4	2	9	2	11	1	5	4	7
女性	26	15	19	21	53	11	9	23	5	15	7	7	19	52	7	14	5	27
不明・無回答	2	1	0	1	3	0	1	1	3	0	0	1	0	2	0	0	1	0
所属 養育家庭	3	0	1	1	0	0	1	−	0	1	0	1	0	3	2	1	0	0
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	−	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
都職員	1	5	0	0	1	0	0	−	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
区市町村職員	0	6	1	4	3	1	0	−	0	0	1	3	0	9	0	11	0	0
民生児童委員	15	7	1	6	10	0	0	−	0	4	2	7	13	3	0	0	6	15
主任児童委員	2	0	2	5	5	4	0	−	0	0	0	0	1	1	0	0	0	6
学生	0	0	2	2	4	1	0	−	3	2	2	1	0	34	0	0	0	1
一般	12	3	6	4	7	8	13	−	3	7	3	1	3	7	2	2	0	8
その他	3	8	9	6	26	3	1	−	1	4	1	2	3	8	3	3	4	2
不明・無回答	2	0	0	0	7	0	0	−	3	0	0	1	1	0	1	1	0	0
養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）																		
区報・市報・ホームページ	19	12	5	10	24	4	12	10	5	8	2	8	13	9	5	4	4	11
ポスターで	2	6	1	2	4	0	2	1	1	1	2	0	1	3	0	3	0	0
児相・子ども家庭支援センター	12	13	5	10	16	6	0	13	0	3	2	5	11	12	5	5	6	10
児童福祉施設	1	6	2	6	5	2	0	7	1	4	1	4	2	3	1	2	3	3
インターネットで	2	1	2	1	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	2	1	0	2
テレビ番組	2	1	0	0	2	0	1	0	0	0	2	1	2	6	0	0	0	1
テレビ CM	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
新聞・雑誌	1	3	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	2
知人・友人	4	2	0	1	7	1	0	1	1	0	0	1	2	3	1	2	0	3
図書	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	1
公開講座	1	1	1	0	4	1	0	0	0	4	1	1	4	9	0	1	0	1
その他	1	7	4	4	10	3	0	5	1	2	5	2	3	23	0	0	1	5
不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	0	5	0	0	0	3
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																		
区報・市報で	19	5	3	5	12	1	8	8	1	4	3	7	10	9	2	7	2	5
都報で	1	3	2	1	2	2	0	2	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
ポスターで	2	2	1	2	1	0	1	3	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0
チラシで	11	9	6	14	19	6	1	7	2	7	2	5	4	24	0	6	5	11
インターネットで	1	1	1	1	1	2	3	1	2	0	1	1	2	1	2	1	0	0
知人に勧められて	2	6	1	2	10	2	0	1	1	0	0	0	1	4	1	1	0	2
過去に参加	7	6	1	3	10	1	1	3	0	2	2	3	5	5	2	1	4	4
問い合わせた	1	2	0	1	1	1	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1
その他	7	8	5	5	17	4	1	7	1	2	1	1	5	32	0	0	2	13
不明・無回答	3	0	0	2	0	0	0	2	3	0	0	2	0	2	0	1	0	2
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																		
養育家庭になりたいと思っていたから	3	0	1	1	1	0	4	2	2	1	1	0	1	1	0	0	0	3
養育家庭制度に興味・関心があったから	26	17	6	12	16	9	11	10	5	4	2	6	10	11	5	4	2	14
子育てに関わる話が聞けると思ったから	14	8	6	3	27	5	2	9	0	4	1	3	9	14	2	8	4	5
仕事や学問などの参考にするため	5	9	11	10	26	3	1	11	4	12	4	8	5	45	3	7	6	5
その他	1	2	1	4	5	2	0	6	0	0	1	1	2	3	1	0	1	4
不明・無回答	2	0	0	3	0	0	0	2	3	0	1	1	0	2	0	0	0	3
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	30	15	10	14	34	14	10	13	4	9	7	8	11	44	3	14	4	28
良かった	6	12	11	11	23	3	4	10	3	8	1	6	6	18	4	3	4	5
普通	0	0	0	1	2	0	0	1	0	2	0	1	2	3	0	1	0	1
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	4	2	0	2	4	0	1	5	3	0	2	2	2	0	1	1	2	0
感想数	23	18	19	13	27	9	8	11	3	12	10	8	8	40	4	11	2	19
アンケート回答	38	29	22	28	63	7	15	29	7	19	10	17	21	65	8	19	10	34
参加者総数	60	41	37	37	77	30	15	49	10	38	18	36	35	109	12	21	25	41

平成 24 年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/17 品川区	11/19 国立市	11/20 千代田区	11/20 奥多摩町	11/20 府中市	11/22 東村山市	11/23 文京区	11/27 渋谷区	11/28 中野区	12/1 足立区	12/1 北区	12/1 国分寺市	12/5 板橋区	12/9 港区	12/10 江戸川区	2/20 多摩市	総計
年齢 ～ 20 代	5	2	2	0	7	2	1	2	1	3	4	3	1	8	0	0	229
30 代	0	2	2	1	1	2	1	4	3	1	2	4	1	6	3	0	123
40 代	8	4	2	0	3	2	3	3	15	8	6	5	5	16	4	6	287
50 代	17	3	1	2	5	1	4	2	4	9	4	3	20	9	15	2	289
60 代～	15	4	4	8	8	8	7	0	0	11	20	2	2	17	30	2	450
不明・無回答	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	2	2	1	0	31
性別 男性	8	3	1	5	2	0	5	3	1	8	5	5	12	12	13	1	270
女性	41	12	10	6	22	15	14	8	22	24	31	12	15	44	39	9	1,085
不明・無回答	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	4	2	1	0	39
所属 養育家庭	1	0	0	0	0	1	0	1	1	5	0	2	0	0	1	0	62
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6
都職員	0	5	0	0	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	35
区市町村職員	7	0	4	1	1	0	2	1	0	2	0	0	17	6	8	2	153
民生児童委員	23	3	1	2	10	3	7	0	0	6	1	0	0	6	32	0	305
主任児童委員	7	0	0	0	0	3	0	2	0	3	1	0	0	2	2	0	72
学生	4	1	0	0	1	2	1	1	0	2	2	3	1	4	0	0	177
一般	7	2	5	5	4	5	6	5	18	8	24	11	6	26	2	5	330
その他	0	4	1	2	7	1	3	0	3	4	4	1	3	9	8	3	189
不明・無回答	0	0	0	1	0	3	0	0	0	1	3	0	4	4	0	0	40
養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）																	
区報・市報・ホームページ	23	5	2	6	11	4	7	6	3	14	8	6	10	28	14	6	529
ポスターで	5	0	1	0	1	1	3	0	3	0	1	3	4	6	4	2	111
児相・子ども家庭支援センター	12	6	4	7	4	8	5	4	1	10	10	2	13	24	12	8	400
児童福祉施設	3	2	0	0	6	1	3	1	2	2	1	3	4	5	3	1	142
インターネットで	1	3	1	0	1	0	0	5	3	2	3	2	2	1	0	1	67
テレビ番組	4	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	1	1	1	4	3	78
テレビ CM	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	10
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
新聞・雑誌	2	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	5	2	1	69
知人・友人	2	0	0	0	1	0	2	3	2	4	9	2	1	4	2	0	102
図書	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	23
公開講座	5	0	0	0	3	2	1	1	0	3	4	2	0	8	2	1	126
その他	13	3	2	0	3	3	4	0	3	8	3	1	3	6	9	1	217
不明・無回答	3	0	1	0	1	0	2	0	0	1	1	1	2	3	0	0	54
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）																	
区報・市報で	13	2	2	5	9	3	3	2	6	6	5	1	2	12	6	4	311
都報で	0	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	2	3	1	56
ポスターで	1	0	0	1	1	0	5	0	2	0	1	1	2	8	1	0	70
チラシで	8	5	5	4	3	4	6	6	9	10	5	5	11	11	11	0	378
インターネットで	1	3	1	0	1	0	0	3	2	1	3	4	0	2	0	0	62
知人に勧められて	0	0	2	0	0	1	2	0	1	0	13	4	3	13	1	0	113
過去に参加	11	3	1	4	1	4	3	1	0	4	1	2	3	21	10	0	211
問い合わせた	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	1	44
その他	25	5	1	1	10	5	6	0	0	13	7	4	10	5	16	3	369
不明・無回答	0	0	1	0	1	1	0	0	0	3	2	0	3	6	4	0	56
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）																	
養育家庭になりたいと思っていたから	1	0	1	0	2	2	1	3	3	5	1	1	2	3	0	1	81
養育家庭制度に興味・関心があったから	20	8	3	6	14	8	6	6	6	10	14	7	12	23	14	4	538
子育てに関わる話が聞けると思ったから	18	2	2	2	6	7	11	3	8	6	8	4	3	22	24	3	393
仕事や学問などの参考にするため	19	8	4	4	12	2	5	2	3	10	4	7	14	25	9	5	495
その他	1	1	1	1	1	2	1	0	0	3	1	1	2	2	6	1	117
不明・無回答	3	0	1	0	0	0	2	0	0	1	8	0	3	2	0	0	46
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																	
とても良かった	35	12	6	8	16	9	10	8	5	23	22	12	13	29	32	7	856
良かった	9	1	3	3	7	5	7	1	7	6	8	2	14	18	15	3	401
普通	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	1	5	1	0	38
あまり良くなかった	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	5	2	1	0	1	0	2	2	0	3	4	2	2	5	4	0	85
感想数	34	10	8	7	13	9	8	4	11	16	20	10	16	24	24	7	780
アンケート回答	49	15	11	11	24	15	19	11	23	32	36	17	31	58	53	10	1,383
参加者総数	50	29	28	26	34	18	43	28	42	44	38	26	35	90	81	21	2,137

養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのできない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく里親制度です。

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格は？

○ 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。

※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。

配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。

○ 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ どのような子供を預かるの？

○ 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おおむね 18 歳までの子供です。

★ 預かる期間は？

○ 原則として 1 か月以上です。

○ 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

○ 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。

○ 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

○ 児童相談所が中心となって支援を行います。

○ 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。

○ ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。

○ 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。

○ 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課里親係

〒163-8001　新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話　０３－５３２０－４１３５

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

こちらのホームページもご覧下さい。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html

養育家庭体験発表集
平成25年9月発行

登録番号(25)120

発　行　東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿2－8－1
電話03(5320)4135　FAX03(5388)1406
印刷所　東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西2－22－26
電話03(3762)7611